

「主の励まし」

川本教会 大坪 羊子



すると、ある夜、幻のうちに主がパウロに言われた、「恐れるな。語りつづけよ、黙っているな。あなたには、わたしがついていて、だれもあなたを襲って、危害を加えるようなことはない。この町には、わたしの民が大ぜいいる」。

使徒18・9、10

中山間地域に住んでいると少子化が進んでいると実感します。教会の前を通って登校する子どもが列が年々短くなっています。子どもたちに案内をすると親に聞いてからと許可をもらわないと来てもらえない状況が小さな町でも起きています。高校生に聖書を配ったときも受け取ってくれる生徒は半数ほどで、「間に合っています」と驚く言葉が返り、先頭の生徒が言つと後は手を出さない状況です。これが現状なんだとがっかりします。

弱気にさせられるなかに、主の力強いみ言葉

に励まされます。パウロに語られたように現在の私たちにもみ言葉をもって励ましを与えてくださっています。

まずは「恐れるな」と声をかけてくださいます。誘っても来ないだろうと自分で結論を決めている消極的な心に光を当ててくださいます。そればかりでなく、「語りつづけよ」と一回だけでなく何回でも声をあげ続けることを促してくださいます。そして「黙っているな」と、福音を伝えることに精をだすように励ましてくださいます。ここにはイエス様の「わたしがついていて」と力強い臨在が約束されています。町の中を歩いてみると子どもたちに出会います。笑顔で声をかけるようにしています。

今、教会学校はクリスチャンホームの子どもたちが四人来ています。すでに三人は受洗の恵みにあずかり励んでいます。あと一人は幼児です。声をかけている子どもたちが新しく加わってくれるように祈っています。

主は「ここには私の民が大勢いる」と幻を見せてくださいます。かつて蒔かれた種を今刈り取らせていただく恵みとこれから収穫される魂のために福音の種まきに励みましょう。

牧羊者

目次

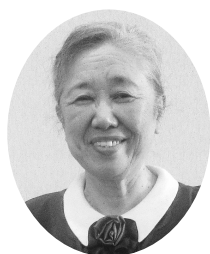
巻頭言	1
目次	2
教師養成講座「児童伝道の重荷と幻」	3
新年△1/3▽	13
ヨセフ△1/10△1/31▽	19
イスラエルの指導者△2/7△2/28▽	43
キリストの十字架への道△3/7△3/28▽	67
牧羊ひろば（小松島栄光教会）	91
カリキュラム	97
「牧羊者」のご購読・ご利用について	98
おわりに	98

〔凡例〕

1. 原語について：ギリシヤ語は〔ギ〕、ヘブル語は〔ヘ〕、アラム語は〔ア〕で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
 こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」（以上、日本キリスト教
 団出版局）、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」（日本ホーリネス教団出
 版局）、イン：「教会学校さんびか」（インマヌエル教会学校部）、ふ：「ふくいん子
 どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」（以
 上、日本児童福音伝道協会）、PW：「プレイズワールド」（リビンググ・プレイズ）

児童伝道の重荷と幻

高松新生教会 小野淳子



一、はじめに

これは、「講座・講義」というよりは、「証詞」とした方がいかもしれません。

C S 伝道のために、また児童の救霊のためにとの思いを抱きつつ、共に集まるだけでも、心が熱く燃えてくる思いがします。神様が私の内になして下さったこと、見せて下さったこと、教えて下さったことをお分かちできます場を、また、このような形で設けて下さって感謝いたします。クリスチャンになって53年です。C S 教師としても53年になります。ずい分昔の話にもなるのですが、しかしそれは、私のC S 教師としての奉仕において、まさにゆるぎのない土台となっているものです。C S 教

師としての原点、基礎、土台のお話です。いわば私のC S 教師としての大切な「霊の財産」とも言えるものです。

二、聖書のみ言葉

1、旧約聖書より、哀歌2・18～19

18 シオンの娘よ、声高らかに主に呼ばわれ、夜も昼も川のように涙を流せ。みずから安んじることをせず、あなたのひとみを休ませるな。

19 夜、初更に起きて叫べ。主の前にあなたの心を水のように注ぎ出せ。町のかどで、飢えて息も絶えようとすする幼な子の命のために、主にむかって両手をあげよ。

2、新約聖書より、マルコ10・14～15

14 それを見てイエスは憤り、彼らに言われた、「幼な子をわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」

15 よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない。」

三、召命の不思議

まずは「召命の不思議」を思います。私自身は、子どもの時、CS（教会学校）を全く経験していません。岡山大学三年生の秋、20才の9月8日（金）に、生まれてはじめて罪の告白をし、徹底的な悔い改めの祈りの中で、身代わりの十字架のキリストと衝撃的な出会いをして、180度変えられた者です。それまで、高校時代も、大学に入ってから「クリスチャンにはならない、なれない、あんな生き方はできない」と、ジイドの「狭き門」などを読んで思っていた者がクリスチャンになりました。そ

れに、牧師になるなどとは、みじんも考えたことはなかったし、CS教師としてご奉仕にあずかれるなどとは夢にも考えたことはありません。ほとんどひとりっ子のように育ちましたので、あまり子どもへの関心もなかったのです。ですから、CS教師への召命も不思議の一言です！

私の場合は、一九六七年3月5日（日）に初めて教会に行き、毎週の礼拝メッセージで霊の目覚めが与えられ、認罪が日々、重く深くなって行きました。7月になって、9月に洗礼を受けたいとお話したあと、まだ洗礼は受けてもいないのに、長島先生から「幼稚科の先生のお手伝いをしてみなさい」と言われて、ベテラン幼稚科の先生のそばでお手伝いを始めました。それが私のCS教師としての召命だったということです。

どういう形でCS教師になったかはいろいろあるとしても、召されたお方は神ご自身です。「私」という者の正体も、賜物も、長所も短所も欠点も、何もかもいっさいを知りつくされた上で、この尊い務めに召して下さるのが神様なのだと深い認識は大切です。その時、信仰に

おいても、奉仕においてもさまざまなことがある中で、いつもこの原点に立ち返り、なお整えられて進むことができるでしょう。どんな時でも、このお方の前に座り直していく時、そのつど、新しい力と光と導きとアイデアと信仰と希望が与えられるにちがいないと信じる者です。神に直結したCS教師でありたいです。

四、神の摂理の中で

救い主、大牧者なるイエス・キリストとの出会いも「不思議」の一言ですが、「不思議」と名のられる主による、人との出会いも不思議で尊いものです。私自身のCS教師としての奉仕の背後に神様が出会わせて下さった二人の神の器がおられました。

1、長島幸雄師との出会い

私が先生と共にいた期間は一九六七年3月5日～一九六六年2月27日（ご召天日）です。

先生は、一九五一（昭和26）年7月、日本イエス・キ

リスト教団創立総会にて、初代CS局長となりました。その先生が、教育教案誌に『牧羊者』と名付けられました。歴代のCS局長が立てられ、また執筆陣が備えられ、受け継がれて、現在70年も続けられてきていることは、まさに大牧者なる主のご熱心以外の何ものでもないと思えます。前のCS局長、長尾秀紀先生もいわば長島幸雄先生の弟子です。長島先生が召される直前に神学校への推薦状を書かれました。

長島先生のCS観を言えば次のようになるでしょう。先生ご自身は東京の人でしたが、戦後一九四六（昭和21）年から、ご夫人智恵子師の実家、岡山の地で開拓伝道をされました。ある時、子ども伝道に力を入れてなかったことに大きな悔いを覚えられました。

「そうだ、子どもは10年たてば大人だ！ 10年はあつという間だ」と。それ以後、児童伝道に力を注いでこられました。先生がいつもCS教師に語っておられたことは、「CS教師は伝道の最前線だ」ということでした。すなわち、集まって来る子どもたちに何ら妨げられることなく、存分に、ストレートに福音をそのまま、大胆に語れる。そんな最高の機会に恵まれているのがCS教

師だ、ということを力説しておられました。そして主管牧師であられながらも、幼小科や中高科の礼拝のメッセージを、入院されるまで語って下さいました。今でもその中のいくつかのメッセージと先生のお姿が魂に刻まれ、再現できるほどです。ご召天前の夏には、海辺のキャンプにも参加、子どもたちと共に泳がれました！

2、堀江博師との出会い

私の神学生時代は一九六九年4月～一九七二年3月でした。もう卒業して、この3月で49年ですから昔の話です。恵まれた熱い教師陣の一人に堀江博という先生がおられました。神戸大石教会を牧会しておられました。先生はまさに、上より「児童伝道者」としての召命を直接、主から頂かれた先生で、その召しのあかしは感動的でした。その先生から「CS・教会学校論」を学んだのですが、「嬰兒科」という、母教会ではなかったものを教わりずっと心に留まとどっていました。卒業後、伝道師として母教会につかわされ、そこで、花開きました。のちに詳しく、あかしとして記します。

堀江先生が、これも生涯をかけて執筆しておられた「おさなご」誌というのが毎月発行されていました。主の召しに応えて、心血注いで編集発行発送をしておられたものを、私たちのCSでも購読し、毎月みなでクイズの答を送ったり、プレゼントを贈って頂いたり、交流させて頂いておりました。思えば、その先生の、小さな魂への熱が筆にこもっていたのが、私自身の魂にも深く潜んでいたのかもしれない。奇しい摂理の中で、「牧羊者」のカリキュラムに沿った「子ども聖書日課」を二〇〇四年春より執筆し始めて、今17年目になりました。今は田中愛子師と金田ゆり師も執筆を担ってくださり、感謝です。

五、私のCS教師歴より

1、求道者時代（一九六九年3月5日～9月8日）

20才、約6カ月。3月5日（日）に初めて、母教会の礼拝に出席しました。大学2年生の春でした。2月26日（日）にスタンレー・ジョーンズ博士の集会からの帰り道、

神の愛に目が啓かれ、この愛を知りたいと、初めて3月5日、翌週の礼拝に出たわけでした。その求道者時代から、先生が、「幼稚園科のお手伝いをしなさい」と言われたので、ベテラン先生の横で一緒にいたわけです。

その中で、忘れられない霊の印象があります。夏頃になると、深い認罪を覚えるようになっていたのですが、CSの分級で、ある朝、幼稚園科のお友だちの前にいた時、まだ自分が悔い改める前のことだったので、目の前に座っている幼な子たちがあまりに清く見えて、その瞳も純粹に輝いていたし……。私は人知れず、冷や汗をかくほど畏れを覚えたのでした。清くなければ子どもたちの前には立てない！

2、信徒時代（一九六七年9月8日～一九六九年3月31日）20才～22才、約一年半

9月8日（金）夕方6時半。徹底的な悔い改めの中で十字架上のイエス・キリストに出会って、180度転換、新生！ 9月17日（日）水のバプテスマ。その次の週から、5～6年生男子、4～5人の分級担任。大学最終学年は

高校科男女7～8人を受け持ちました。分級でしたが、子どもたちや生徒に語るには、聖書を学ばねばなりません。よくよく聖書を読み、『牧羊者』に目を通し、熟く語りました。聖書について知ることができたCS教師の大きな特権を味わいました。CS教師をしていなかったら、聖書をそれほどにも分からなかったと思います。しかし、この頃の私は、CS奉仕がなんであるのかなど、全くわかっておりませんでした。

3、神学生時代（一九六九年4月1日～一九七二年3月10日）22才～25才、3年間

一年生は垂水教会奉仕。名誉牧師 沢村五郎師・百々枝師、主管牧師 中島彰師・ふかえ師、副牧師 工藤弘雄師・須美子師でした。二年生は、神戸聖泉教会。足立幹夫師・直子師でした。三年生は、尼崎福音教会、三島常夫師・トミ子師でした。

それぞれの教会で当然CS教師としてご奉仕がゆるされ、分級はもちろんのこと、CSあるいは中高科で礼拝説教もさせて頂きました。ところが、よい実習をそれぞ

れの教会を通し、先生方との接触、ご指導の中で頂いて、今でも忘れられない霊の恵みはハッキリとしています。が、そのような中でも、私はCS奉仕が何であるのか、全くといっていいほど、わかつてはいませんでした。

4、伝道師時代（一九七二年3月10日～一九七五年12月30日）25才～28才、留学前3年8ヶ月

CSへの開眼

一九七二年3月10日（金）に、関西聖書神学校を卒業して、その次の聖日3月12日（日）から、伝道師として着任しました。

長島師がちょうど教団委員長の時でしたので、2年先輩の伝道師の先生と共に仕えていました。私はCS幼少科の担当となりました。先輩が中高科を受け持たれました。その頃、24～25名ほどのCS礼拝でした。心に大きな重荷を覚えて、主のみ前にぬかずいたのです。そこから、私の内にCSの泉が湧き出たのでした。（詳しくは「六、重荷と幻」の項で。）

5、英国にて（一九七五年12月31日～一九七九年9月26日）28才～32才、3年9カ月

さらなる開眼

インマヌエル・バークンヘッド教会で、アイルランドで、ビーチミッションで、また、神学校の友人との交わりを通して、幼な子も救われる事実に向直し、さらなる開眼でした。

六、重荷と幻（伝道師時代のCSへの開眼）

1、聖書のみ言葉

「ご主人様、あなたはわたしに五タラントをお預けになりましたが、ごらんとおり、ほかに五タラントをもうけました」（マタイ25・20）

密室の祈り（私にとっては、講壇のふもとでした）の中で、CSのために祈っていた時、このみ言葉が心に浮かびました。『ほかに五タラント』つまり、量的にも、質

的にも倍に！

2、密室の祈りと訪問

実はこの『密室の祈り』の中で、CS奉仕が何であるのかを徹底的に知らされ、これが一番言いたい所と言っても過言ではありません。

毎晩、大体21時くらいから、暗い礼拝堂の講壇の下所にひざまずいて祈りました。ひとつひとつのクラスの担任の先生と、クラスの子どもの名前を一人ひとりあげて祈るのです！特に、CS礼拝に来られなかった子どもたちの為にはあつく！

こうした密室の祈りと共に車の両輪のようなものが「訪問」です。欠席した子どもたちには、必ずその週の内に訪問して、み言葉と週報を届けます。これは大人の牧会伝道でも同じだったのですが、小さい金言カード（み言葉カード）のうらに名前を書き、「次の日曜日、ぜひきてね！」と記して、ポストに入れます。後に、子ども週報「みつかい」（これも長島師命名）が発行されるようになり、金言カードをそれに貼りつけて配りました。大人

はなかなかでも、当時のことでしたから、子どもたちとはとてもいい反応を示しました。

次第に子どもの数は増えていきました。子どもの反応はとてもよかったです。一九七二年、つかわれたその年、年間平均が47名になって、涙があふれました。一つのクラスがどこも10名を超えるようになり、一九七五年、つまり3年後には、CSの礼拝が100名を超えるようになり、一九七五年4月からは、幼く小3、小4く小6と、二つに分けての礼拝となりました。特別な折には一緒にすると110名とか115名とかになり、礼拝メッセージにも力がこもりました。

この密室の祈りの中で、暗闇の中で、礼拝堂の講壇の前で祈るのですが、その頃の私は、大体200人くらいの人々、教師と子どもたちの名前を宙で覚えて祈っていました（いまだに覚えている名前も沢山あります！）。

この密室の祈りの中で、深い霊のチャレンジを、一生涯、忘れ得ないチャレンジを頂いたわけです。

①あなたは今、そのように一人ひとりのため心を注ぎ出して祈っているが、『その中の一人の魂のためにでも

死ねますか』との主よりのチャレンジ。果たして、本当に死ねるだろうか…。

②ひとりの重み

私という存在は、全歴史全宇宙の中で、ユニークな存在。他にはないかけがえのない、ただひとりの存在。その私が永遠に生きるか、滅びるかは重大問題！ 今祈っているあの子にとっても、この子にとっても全く同じく重大問題！ だから、救われなければならない (!!) のです。

このようにして、霊と重荷の深みに入れられ、密室の祈りは涙の祈り、救霊の祷告となっていました。以来幼な子、子どもたちを見れば心が熱くなるのをおさえられなくなりしました。

3、渡英と帰国（一九七五年12月30日、一九七五年9月26日）（28才、32才）

英国でさまざまなチャレンジなCS宣教と奉仕を見せて頂いた中で、子どもたちが、7才とか8才とかでも、

悔い改めて、信じて救われる！ その事実に出くわしました。今も、私のために毎日祈っていてくれるアイルランドの友人も、8才で救いを確信したとあかししてくれました。JEB（日本伝道隊）宣教師のドロシー・ホーア先生は3才の時、ピアノの鍵盤に印をつけたことで認罪が与えられ、救いに入れられたと聞いています。よく物事がわかってから、中学生くらいになってからというのが母教会の方針でしたので、大きなチャレンジでした。

帰国時の重荷を記します。学びが終了したので、自動的に帰国するというのとは少しちがっていました。英国にいても十分日本人伝道のできる状況で、祈りの内に、私は、再度英国の地から日本につかわされる思いで帰国しました。神学校では月1回水曜日に「海外宣教祈祷日」があつて宣教師の方々の手紙が読まれ、祈り合う一日がもたれていました。

ある日、V・マグラス先生のプレーヤー・レターの中にあった「進学の悩みの中で6人の若者たち（最年少は9才）が一緒に自殺した」という一文が読まれました。ドカッと重荷が魂にのしかかってきた思いでした。密室に退いては、主に祈りました、「主よ、福音があるではあ

りませんか」と。日本のために祈ろうとすれば、まず出てくるのは涙、涙。そのような中で、帰国に際して、主からみ言葉が語られました。

「一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる」(ヨハネ12・24)でした。

一粒の麦として死に、豊かに実を結ぶために、改めて英国から日本に遣わされていくという感覚で帰国しました。一九七九年9月26日(水)大阪・伊丹国際空港へ20時30分くらいに着陸する前に、飛行機の中の電気が消されました。私は窓際の席で、着陸しようとする飛行機の中から、大阪の街の灯りが見えた時、「この国のために、この国のために」と、涙が溢れたのでした。

七、 小羊会よりの結実

堀江博師より教わった小羊会を実践することのできる状況が整えられていました。母教会はベビーブームで0才〜3才の子どもたちが10名ほどいました。特に家が遠くて、教会学校に来れない子どもたちが、親と一緒に礼

拝に出ていました。この子たちのために小羊会をと思い立ったわけです。礼拝終了直前の10分〜15分ばかりの報告の時間を用いて、別室に集まってさんび(イエスさまが一番)をし、お祈りし、み言葉を言って、短くお話、もう一度さんびして終わるというものでした。

留学中も継続されていた小羊会でしたが、小学生になつていたので、「小羊会」と名付けて継続。もちろん、さんびもふえ、み言葉も共に暗唱し、お話も理解にのびて語りました。

とても楽しそうに、うれしそうに聞いてくれていたのが印象深く心に残っています。数も次第にふえ、20名ほどにふくれました。クリスマス礼拝では、創作のオリジナル一場面劇ページェントをして、顔見せの時もちました。

小羊会を開始した一九七二年三月、最初からいたのが一歳一カ月だった後藤真師(元は吉田真)でした。

私が舎監の時代に献身してこられた折には心より聖名を崇め、後藤師の証詞はまさに、恵みの逆輸入でした! こうした祝福の結実の中で、忘れてはならないのは、子どもたちを毎週、主のみに連れてこられた両親、あ

るいは、そのまた両親の信仰と愛の労苦です。心から、大きな拍手を送ります！

終わりに「幻」です。それは今も祈っている幼い魂が、やがてキリストの十字架のもとにぬかずき、キリストの愛にとらえられる時が必ず来ると信じて、その幻を抱いて祈り労していくことです。

許される限り天に召される時まで、終生現役のCS教師でありたいと祈り願います。

一九六九年4月に関西聖書神学校に入学する前に、前年の12月20日、C・H・スポルジョンの「夕ごとに」を読んで、心がふるえる思いで「救霊者として生かされたい！」と霊の感動を覚えたのでした。その一文（後半）を記します。

救霊者となることは、この世における最も幸いなことである。あなたは一つの霊魂を主に導くたびに、この地上に新しい天国を得る。しかし、天上で私たちを待ち受ける祝福を、誰が想像できよう！「主人と一緒によろ

こんでくれ」という御言葉のすばらしさよ！救われた罪人のために、キリストがいかに喜ばれるかをあなたは知っているか。この喜びこそ、私たちが天において得る喜びである。主が王座にのぼられる時、あなたも彼とともにのぼる。「よくやった、よくやった」という声が天をゆるがす時、あなたは報いにあずかる。あなたは彼とともに労しともに苦しんできた。今や、あなたは、彼とともに支配する。あなたは彼とともにまいてきた。そして彼とともに刈り取るのである。あなたの顔は彼の顔のように汗におおわれ、あなたの魂は、彼の魂のように人々の罪を悲しんだ。今あなたの顔は彼のごとく天上の輝きに照りはえ、あなたの魂は、彼のごとく祝福の喜びに満たされる。（C・H・スポルジョン『夕ごとに』12月20日分より）

その時の霊の感動は、今も薄らいではいけませんし、生涯、薄らぐことはないでしょう。

（※「牧羊者・二〇一二年度第Ⅰ巻」に掲載されたものを、筆者の監修のもと一部再編集しました。）

聖書

ヨハネ3・1～15

タイトル

新しくされる恵み

暗唱聖句

だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。ヨハネ3・3

目標

新生の必要を知り、キリストを信じて新生の恵みをいただく。

導入

(飯田勝彦)

新しい年がスタートしました。昨年は新型コロナウイルス感染症のことで世界が困難の中にありました。学校も大変だったでしょう。さて、今年はどんな年になるでしょうか。忘れたくないことは、私たちにはすべてを知ってください、どんな時でも共にいてくださる神様がおられる恵みです。

元旦にはどのような一年を神様に期待して祈りましたか？ 神様はいつも私たちに新しい恵みを与えてくださいます。今朝の個所から恵みを受取りましょう。

イエス様を求める恵み

ある夜、ニコデモという人がイエス様のところに訪ねてきました。彼は、神の言葉を理解し忠実に守ることに

熱心なパリサイ派に属していました。しかも、彼は議員でもあったのでみんなから尊敬されていました。その彼が、人目を避けるように夜、イエス様を訪ねたのには、よっぽどの理由があったのでしょうか。

当時イエス様が、様々な場所で神様について教えられ、また多くの奇跡をされていました。それをパリサイ人たちは良く思っていないでした。でも、ニコデモはイエス様の教えと奇跡は、神様が共におられるからできることだと認めていました。彼はイエス様のことをもっと知りたいと思って夜に訪ねてきたのでしょうか。これに対して、イエス様はどんな気持ちだったでしょう。

皆さんが、イエス様のことを知りたいと思って毎週日曜日に教会学校に来ることは、まさにニコデモと同じではないでしょうか。私たちの内にイエス様を求める恵みが与えられているからこそ、こうして教会に来ることができると感謝しましょう。

新しく生まれる恵み

ニコデモはイエス様からはっきりと「わたしは、あなたが待ち望んでいるメシア救い主だ。」、または「あなたは熱心だから神の国に入れる」と言う言葉を聞いた

かつたのかも知れません。でも、イエス様は「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」(3)と言われました。神様が支配される素晴らしい神の国には、ただ聖書を知っているだけでは入ることも見ることもできないことをイエス様は示されました。

世の中には、「聖書を学んだことがある」とか、「礼拝に行ったことがある」という人はたくさんいます。でも、知識だけでは神の国に入ることはいけません。「あなたがたは新しく生まれなければならない」とイエス様は言われたのです。

「新しく生まれなければならない」と言われるイエス様は、私たちを新しくすることのできる神様です。私たちに備えられた新しく生まれる恵みを受取りましょう。

新しくする十字架の恵み

ニコデモは、イエス様が言われた「新しく生まれなければならない」に対して「年老いた者がどうしても一度は、母のお腹に入って生まれることができますか?」と言いました。確かにそうです。皆さんももう一度お母さんから生まれることは出来ませんか。「新しく生まれる」

とは、この体のことではなく、私たちの心のことです。罪に汚れた心は新しくされる必要があります。心が暗く汚れていると苦しくなります。イエス様は私たちが思う以上の恵みで心を新しくしたいと願っておられます。

イエス様が言われた「モーセが荒野で上げたへび」とは、イスラエルの民が荒野でへびに噛まれ苦しんでいる時、モーセが青銅でへびを作り旗ざおの上につけ、それを仰いだ者が生きた出来事です。それと同じようにイエス様は罪という毒蛇に苦しめられている多くの人を救うために、十字架につけられる必要がありました。

イエス様はわたしの救い主であり、イエス様の十字架はわたしの罪のためであつたと信じる者は、罪赦され心が新しくされます。イエス様の十字架は私たちを新しくし、神様と共に歩む素晴らしい人生に導いてくださいます。

まとめ

もうイエス様を信じて新しくされていますか? 今年も新しく造り変えてくださるイエス様に期待して祝福された一年を歩みましょう。

♪イエスさまについていこう♪(ホ117、イン82)

聖書 ヨハネ3・1～15 テーマ 新しく生まれる

序論

(福井文彦)

ニコデモは当時宗教的にも社会的にも知識と経験に富む、高い地位を得た、ユダヤ人を代表する人物であった。その彼がイエスを〈先生〉と呼び、教師として最高級の人物と尊敬していた。しかし、彼にはイエスが人を新生し、霊的命を与えるメシヤ(救い主)であるという認識に欠けていた。

一、ニコデモのイエス理解

ニコデモは〈パリサイ人〉であった。パリサイ派の人は、ユダヤ教の正統的な信仰を持ち、旧約聖書の權威を信じ、それを実践している立派な人というイメージがあった。また、彼は〈ユダヤ人の指導者〉、つまりユダヤ人議会の議員でもあった。ユダヤ人議會は、ユダヤ人の政治的議會であり、ユダヤ教の最高の議會でもある。だから、彼は人々から尊敬され、有力で有名な人物でもあった。

彼は自分の社会的立場、人々に対する面子、体裁を考

え、人目を避けて夜こっそりイエスのところに来たと思われる。彼はイエスに会う必要、飢え渴きを覚えて自らイエスを尋ねて来た。彼はイエスを〈先生〉と呼び、最大級の尊敬の念を込めて教師として認めている。そのお方から教えを得ようと求めて来たのである。

ニコデモはイエスを、〈神からこられた教師〉、〈神がご一緒〉である、だれ一人出来ない〈しるし〉(奇跡)を行うお方と理解していた。彼はイエスの奇跡を見たことによつてイエスを非常に高く評価していた。しかし、彼はイエスがメシヤであるとの認識に欠けていた。

二、水と霊による新生

そこでイエスは答えて、〈よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない〉と言われた。このところで〈新しく〉と訳されているギリシア語はアノーセンで、「上からの、天からの」という意味でもある。これは神により新しく生まれる、霊的誕生を意味する。人が生まれながらに持っている肉体的命ではなく、神から与えられる霊的命のことである。

ところが、ニコデモにはイエスが「新しく生まれる」

と言われたことが皆目分^{かいく}からず、肉体的な誕生のことしか考えつかなかった。彼は、〈人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいつて生れることができましようか〉と、的外れな答えをしている。

そこで、イエスはもう少し詳しく説明された。〈だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない〉。ここで、〈水〉とは、①悔い改めと信仰告白、②み言葉、③御霊を指すと解し、「水すなわち御霊」など考えられる。いずれにしても、水と御霊による心の刷新（根本的变化）とその結果による霊的真理への目覚め、つまり神が与える霊的命を得ることが新生である。

三、新生の説明

イエスはニコデモが聞いた内容に当惑し、不思議に思っている（7）ことに対して、〈風〉を例として用いられた。風は吹いていても、目で見えることはできない。そんな風でも音なら聞くことができるし、そよぐ木々を見れば今風が吹いているのだと分かる。そのように、御霊による新生も、人間の目で見えることはできない。しかし、御霊が新生させてくださると、その人の人生がすっかり

変わるので、だれの目にもよく分かるのである。

しかし、ニコデモはまだイエスの言っておられることが理解できなかった（9）。そこでイエスは、イスラエルの民が昔、経験した故事を引き合いに出された（民数記21・4～9）。食物と水の不足に対して民は指導者モーセに逆らった。そこで神は罰として、彼らに毒蛇^{どくへい}を送り、それにかませられたので、つぶやいた多くの者が死んだ。民は自分たちの不従順の罪を悔い、モーセにとりなしの祈を乞うた。モーセが祈ると、神は、あの毒蛇と同じ形をした蛇を青銅で作り、それを旗ざおの上につけるように命じられた。そして、毒蛇にかまれ苦しんでいる人が、その青銅の蛇を仰ぎ見ると救われたのである。それと同じように、十字架に上げられたイエスを信じて、仰ぎ見る者はだれでも、救われ、永遠の命が与えられて、神の国に入ることができるのである。

結論

イエスは、だれでも、イエスに対する信仰によって新生し、罪とその結果の永遠の刑罰から自由にされ、永遠の命を与えられて神の国に入ることができることを教えられたのである。

研究資料

(加藤 満)

ヨハネの福音書3章では、それまで公に語られていた場所から、個人的な場所へと場面が移っている。また、特別な奇跡を通してではなく、長い対話の形で、イエスが神学的にご自身の使命を語るのにはヨハネでは最初の場面である。ここに「永遠の命」、「上げられるイエス」など、救いに関わる主要テーマが挙げられるが、十字架の贖いの十全性、永遠の命の豊かさが記されている。

1 パリサイ人：ニコデモ パリサイ人は律法遵守を大事とする一派。ユダヤ人の指導者とは、ユダヤ人の最高議決機関であるサンヘドリンの一員を意味する。

2 この人が夜イエスのもとに ヨハネ福音書において夜は象徴的である。光の時が神の時であるのに対し、夜は悪の支配の時として扱われるからである(3・19～21)。この夜はニコデモの霊的な盲目状態を表している。先生、わたしたちは… 主語が複数形。彼は個人的な興味だけでなく、神殿の教えによってイエスに感化を受けた人々(2・23)の、その一つのグループの代表としてイエスの元に来たのだらう。

3 だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない 「新しく」(ギリシア語「アノーセン」)は「上から」と「再び、新たに」と二重の意味が含まれている。新しく生まれる事はこの地上の誕生と区別され、上から、再び生まれることである。そして、この命は神の国(神の支配)に属した命である。

5 だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない 「水」から生まれるは、バプテスマのヨハネの言葉(1・33) 故に、水の洗礼と理解される。ただ一方、文脈的にはイエスはここで新しく生まれることを再度説明している。その為、4節のニコデモの言葉を受けて、母の胎から生まれることを「水から生まれる」と表現しているとも理解できる。そして水と霊から生まれる事は、並行的な出来事として語られている。

6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である 5節の並行的に描かれた二つ(水と霊)を、肉と霊と言い換えている。この二つは二者択一ではなく、並行的である。人は肉において生まれた体で、同時に霊において生まれるのである。

8 風は思いのままに吹く。…霊から生れる者もみな、

それと同じである 「風」(ギ)「ブニーム」は「風」と「霊」と二重の意味が含まれて、その性質も重なっている。風は思いのままにふき、人間はその存在を認識し、風が動かしした物を見ることはできる。しかし、風の正確な働きを記録することはできない。人間の知恵や支配に風は縛られない。そのような点で、風は人間にとつて謎であり、神秘である。

12 わたしが地上のことを語っているのに……どうしてそれを信じるだろうか 「地上のこと」は地上でイエスが既に人々の前に明らかにしてきたしるしであり、つい先程ニコデモに語った「新しく生まれる」ということ。一方「天上のこと」はこれからのことであり、また父なる神と天から降った御子イエスのことを指す(13)。

13 天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない 御子イエスの権威がここに明らかにされる。御子は地上から昇ったのではない。ユダヤ教の一つの考えでは、モーセのように神の近くに昇る事により、神の知恵を得られると信じられていた。しかし、イエスの知恵と権威は全く異なる。イエスは天から降ったのであり、それ故に父なる神の霊の知恵と言葉

を地上に語ることができる。

14 ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない 「上げる」(ギ)「ヒュプソオー」は上に「持ち上げる」と(霊的な尊厳を)「高める」の二重の意味を持つ。その為、蛇の体が木に上げられた様に(民数記21・8～9)、イエスも十字架に上げられるが、その十字架は同時にイエスが最も栄光をお受けになる場所であることを意味している。

15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである イエスへの信仰による永遠の命は存在自体を変容させる命である(4・14、5・24、6・27、17・2～4)。この「永遠の命」は永遠に生き続ける命というよりむしろ、永遠なる神の終わらない臨在と共に生きる命であることを意味している。それ故、永遠の命は死後の命、終末的な命のみを意味しているのではない。永遠の命は今、信仰者の内にある命であり、神の臨在と共に神の国(神の支配)を生きる命である。

参考図書 『現代聖書注解 ヨハネによる福音書』(日本基督教団出版局)。いのちのことは社『新聖書注解新約1』他。

聖書

創世記37・5～11

タイトル

夢を見たヨセフ

暗唱聖句

人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である。

箴言16・9

目標

神がご計画をもつて自分の生涯を導かれることを覚え、生きる。

導入

(後藤 真)

みなさんは夜寝ているとき夢を見たことがありますか。聖書の時代の人たちには、神様の特別な思いを夢で知らされるといことがあったようです。きょうの物語に登場するヨセフもそうでした。

ねたまれたヨセフ

ヨセフは、ヤコブの息子です。ヤコブのお父さんは、イサクで、イサクのお父さんはアブラハム。アブラハム、イサク、ヤコブと続いてきた創世記の物語は、ヨセフたちの時代に入りました。

ヨセフは十二人の男兄弟の十一番目でした。上のお兄さんたちはもう大人で羊飼いの仕事をしていました。ヨ

セフは十七歳。高校二年生か三年生の年ですが、まだ半人前でお兄さんたちの仕事を手伝っていました。

二・三人の兄弟でも兄弟げんかが起こるのに、十二人もいると大変です。ヨセフはお父さんのヤコブからえこひいきされ、かわいがられ、一人だけ特別な服を作ってもらいました。ヨセフもお兄さんの悪いことをお父さんに告げ口しました。そんなわけで、ヨセフはお兄さんたちからとてもねたまれていました。「ねたむ」というのは自分より相手の方が得をしているのをうらやましく思う気持ちのことです。

夢を見たヨセフ

さて、ヨセフは夢を見ました。そしてそれを得意げにお兄さんたちに話しました。

「兄さんたち、聞いてよ。ぼくは夢を見たんです。わたしたちが畑で束を作っていたら、ぼくの束が真っ直ぐに立ち上がりました。そしてお兄さんたちの束がまわりに来てぼくの束を囲んだんです。」

それを聞いたお兄さんたちはカンカンになって怒りました。

「ヨセフ、お前はおれたちを治める王様になるのか。そ

1月

10日 礼拝メッセージ例

れでおれたちを支配するのか！」

ヨセフの夢はそういう意味としか思えなかったのです。

ヨセフはまた別の夢を見て、それをお兄さんたちに話しました。

「また夢を見たんです。見ると、太陽と月と十一の星がぼくを拜んだのです」

これを聞いていたお父さんのヤコブは、いつもはヨセフを甘やかしていましたが、このときばかりは厳しくしました。

「ヨセフ。お前の見た夢はいったい何なんだ。わたしやお前の母さん、兄さんたちが、お前のところに進み出て、ひれ伏してお前を拜むということか！」

お兄さんたちはますますヨセフに腹を立て、ヨセフをねたみました。ただお父さんのヤコブは、この夢の話を覚えていました。もしかするとなにか神様の思いがあるのかもしれないと思ったのでしょう。ヤコブも、夢で天からののはしごを見て、神様の約束を頂いたことがあったのです。

神様には計画がある

ヨセフの見た夢はずっと後になってそのとおりになり

ます。そのお話の続きは来週、再来週、その次の週を楽しみにしててください。大切なことは、神様には計画があるということです。そしてそれが神様の計画だったことは、後になってはじめてわかるのです。

だからつらいことがあっても「神様はぼくのことなんか忘れたんだ」と心配しなくても大丈夫です。神様の計画はわたしたちの考えよりもずっと大きいのですから、神様がいちばんよくしてくださいと信じて従っていくことが大切です。

それからヨセフの態度は決してほめられたものではありませんでした。お兄さんたちの気持ちをぜんぜん考えないで、夢の話をしたからです。それでお兄さんたちはこの後ヨセフをひどい目に合わせてどれいとして売ってしまいます。それももちろん良くないことでした。

神様の計画はすばらしくても人間は失敗したり、間違ったりして、計画を台無しにしてしまうことがあります。でも神様は計画が狂ったら何もできない方ではなく、失敗した人間を助け、最後には神様の計画をなしとげてくださる方なのです。

♪歩こうイエスの道を♪ (PW15、イン81)

聖書 創世記37・5～11 テーマ ヨセフ①

序論

(石田高保)

ヨセフについての記事には、夢のことが二回出てきます。今日の個所とパロの夢を解き明かすところからです。どちらも預言的なもので、将来実現される神の計画を暗示しています。私たちの人生にも神の計画がすでに立てられており、その一端しか見えないものの、神はその実現のために私たちを用います。

一、神の計画を知る

ヨセフは父ヤコブの愛したラケルの忘れ形見であることから、えこひいきされて育ったので、お兄さんたちからはひどく妬まれていました。そんなある日、ヨセフは自分の見た夢を父や兄たちに話します。それは二つの夢ですが、テーマは一つです。それはいつかヨセフが両親やお兄さんたちの上に立つというイメージです。ヨセフは意味が分からないまま無邪気に話したのでしょうかけれども、その波紋は小さくありませんでした。まず兄たちはヨセフが上に立つという内容に我慢がなりませんでし

た。これですます憎まれることになりました。父ヤコブはというとヨセフの無礼な話をとがめながらも、この言葉を心にとめた」とありますから、兄たちとは違う受け止め方をし、何か預言的なものを感じたのでしょうか。

ところが驚くべきことにヨセフの夢は十数年の時を経て文字どおり実現します。二度も同じテーマの夢を見ることは、パロの豊作と凶作の夢と同じく、神が確実に成就させるということを裏づけています。つまり神はヨセフの夢をおして、ヤコブの一族に立てたご計画の一端を示されたわけです。

私たちの人生において夢によって将来のことを示されることはまずないでしょう。しかし神は聖書をおして将来のビジョンを示して下さることがあります。また私たちの祈り、経験、願望、状況、人の助言などをおして祝福の計画を示して下さいもあるでしょう。それは運命ではありません。神は私たちの意志とは関係なく、問答無用でご自分の計画を押し切るものではありません。むしろ私たちは自分の意志を働かせながら神の計画実現に協力すると言ったほうがいいかもしれません。神は私たちの個性や判断や能力や願望を最大限尊重した上

で、ご自分の計画へと導かれるようです。しかしあるとき、選択は最善ではないかもしれません。それどころか我をとおしたり、横やりが入ったために次善、三善、ときには最悪になることもあるでしょう。しかし神はその結果の一部の責任を私たちに負わせた上で、癒しと回復と新しい展開を与えて下さいます。

二、神の計画に協力する

「人は心に自分の道を考え計る、しかし、その歩みを導く者は主である」(箴言16・9)とあるように、私たちの判断ミスや独断専行することがあっても、それで神の計画が頓挫するわけではありません。ほんらいあるべき形ではないかもしれませんが、神と共に歩もうとする限り、私たちの人生には大筋において神の計画は実現してゆきます。それは世界の歴史においても透けて見えます。歴史 history は、His story 神の物語であると言われます。神は一定期間、悪がはびこるのを許容しておられますが、時が満ちると歴史に介入し、決着を着けなさいます。「わたしの計りごとは必ず成り、わが目的をことごとくなし遂げる」(イザヤ46・10)とあるように、個人や家族や教会の歴史においても、人間の罪深さにもかか

わらず神の計画が完遂しないことはありません。

ヨセフの見た夢は、実に神の計画を啓示されたものでしたが、それがお兄さんたちの罪深い行いによって成就するとは、あまりの神秘で人間の理解を超えています。それなら結果オーライでお兄さんたちの罪が免責されるのかと言うとそんなことはありません。もしそうならお兄さんたちの悪事は必然かつ最善であったことになってしまふからです。彼らはヨセフの前にバツリ手について謝罪することによって赦されていきます。それによってヨセフの積年の苦しみも報われました。お兄さんたちへのわだかまりから解放され、心の底から彼らを赦せたからです。もし彼らの謝罪をうやむやにしていたら、ヨセフはいつまでも古傷に痛んだことでしょう。不幸な出来事の引き金になった夢でしたが、それがまた一族の救いとイスラエル民族の形成につながるわけですから、神の計画は人知の遠く及ぶところではありません。そこにまた私たちの安心もあるのです。

結論

どんなに理不尽な出来事に出くわしても、その向こうに神の計画を見えるという眼力を養いましょう。

研究資料

(宮澤清志)

今日から4週間に渡って「ヨセフ物語」を取り扱う。この物語を扱うには、創世記全体を理解しておく必要がある。特に、ヨセフ物語を一貫して流れているテーマが「神の摂理」であることを心にとめるべきである。37章以下を読むだけでなく、創世記全体の中のヨセフ物語の位置づけも頭の中に入れながら読むことが望ましい。なお、ヨセフ物語(37章)の内容(梗概)を次週の研究資料に掲載しておくので、その項も参照いただきたい。

ヨセフの夢の物語は他の物語にある夢の記事とはいくつかの面で異なっている。まず、夢の中に神が現れてこないこと。また、曖昧ではなくそれを聞いた他の人々にも非常にはつきりと理解できる夢であること。そして同じ意図を持った夢が2度繰り返されること。特にこのことは夢の意味するところをはつきりとさせる効果を持つものとされる。

テキスト

5〜8 ヨセフの見た夢の紹介と、兄弟たちの反応が描かれている。この夢の中には、神の顕現や神からの直接

的語りかけもない。ここでは、夢は言葉ではなく象徴としての意味を持つ。

夢 古代世界では、夢の意味するところは広く証言されていた。夢を解く方法も現存している。スフィンクスの足元には「夢の碑文」というものが埋まっていることからしても、夢解きは当時から広くなされていたという。

さて、聖書において、夢は重要な内容を持っていることが少なくない(創世記28・10〜17、列王上3・5〜15、マタイ2・13等)。一方で、聖書の中には「わたしは夢を見た」と語って偽りを預言する預言者もいた(エレミヤ23・25)。このように、聖書においては、夢は肯定的にも否定的にも、あるいはむなしなもの(ヨブ20・8)としても取り上げられている。日常生活そのままの夢は、もちろん特別な意味を持つことがなかったが、中には特殊な内容を持ち、その解釈を必要とするような場合もあった。そのような場合に問われるのは、夢を見させる神がどのような意図を持っているのか、というメッセージの把握が必要なことである。そこから夢の解き明かしをする職業的な地位を持つ者が現れた。しかし、夢の解き明かしはあくまでも夢を与えた神ご自身であって、その人

物に解き明かしの霊的伝達をしたのである（創世記40・8、ダニエル2・28）。人間的な作為をもつて見る夢に、神のみ告げは見出せないのと同様、人間的な作為をもつて夢の解き明かしはできないのである。

7 わたしたちが畑の中で束を結わえて 羊飼いであるヤコブ一家（2）が麦の束を収穫しているが、当時の遊牧民は、全くの遊牧民ということではなく半遊牧民であることを示唆している。当時の遊牧民は、遊牧するばかりでなく、定住することもあった。その場合は何らかの穀物を植え、収穫もしていたようである（創世記26・12）。

わたしの束を拝みました 「おじぎをしました」（新改訳第二版）、「ひれ伏しました」（新共同訳）とある。このことは、ヨセフの兄たちに対する支配権を表すものと考えられる。

9 11 2番目の夢の紹介と、ヤコブら家族の反応。

9 わたしはまた夢を見ました この個所には〔ヘ〕ヒンネー（見る）という言葉が2度用いられている。新改訳第二版では「見ましたよ。見ると…」と訳されており、ヨセフの語り口がよく表現されている。得意げになってヨセフが語る語り方を、彼の無邪気さからのものである

との考え方が根底にあるのであろう。

10 わたしとあなたの母 ヨセフの母はラケルである（30・22～24）。しかし、ラケルは既にヨセフの弟ベニヤミンの出産に際して亡くなっている（35・16～21）。死んだラケルがヨセフを拝むことはないの、これは便宜上ラケルの姉のレア（29・16）のことを指すという説明をする者や、母ラケルがまだ存命中であるという立場をとる者もいる。しかし、ヨセフにとっては母はやはりラケルである。夢の中に故人がでてくることはありうることである。

11 心にとめた 字義通りには「言葉を記憶した」。兄たちは、ヨセフの夢の中に、自分たちに対する威嚇のみを見る。それに対してヤコブは、ヨセフとともにある未来に対する神の啓示を見たのであろう。この両者の態度は、神の言葉が語られたときの私たちの態度としてもとらえることができる。前者は感情的にとらえる態度であり、後者は謙遜さをもつてとらえる態度である。この態度は、主の母マリヤの態度へとつながる（ルカ2・19）。

参考図書 デレク・キドナー「ティンデル聖書注解 創世記」（いのちのことば社）、他

聖書

創世記39・19～23

タイトル

主がともにおられたので

暗唱聖句

主がヨセフと共におられたからである。
主は彼のなす事を榮えさせられた。

創世記39・23

目標

どんな状況の中でも神が共におられることの幸いを知る。

導入

(後藤 真)

ヨセフは自分の見た夢を、お兄さんたちに得意げに話しました。ヨセフはお兄さんたちにねたまれ、奴隷として売られてしまいました。そのあとヨセフはどうなったでしょうか。

主がともにおられたので

奴隷として売られたヨセフは、ポテバルという主人に買われました。ポテバルはエジプトの王様の家来で、とても高い位の人でした。主である神様はいつもヨセフとともにおられました。それでヨセフはいっしょうけんめい仕事をしました。それで、神様はヨセフの仕事を成功

させてくださいました。

最初はポテバルも簡単な仕事しか任せていなかったのでしょうか。でも、ポテバルはヨセフの仕事ぶりを見て思いました。「イスラエルの神様がこのヨセフという奴隷を成功させているのだなあ」。それでポテバルは全財産をヨセフに任せるようになりました。

神様はヨセフのためにポテバルの家の財産を祝福しました。お兄さんたちからいじめられ、奴隷として売られたヨセフは、ポテバルから信用され、家のすべてを任されるほどになったのです。

ポテバルの妻

すべてがうまく行っているように思っていたとき、大変な事件がおこりました。ヨセフがポテバルの妻に言い寄られたのです。ヨセフは断りました。それはご主人さまのポテバルを大事にするためと、神様の前に罪を犯さないためです。ヨセフはポテバルの妻に近づかないように注意しました。

ところが彼女は「ヨセフが悪いことをするためにわたしのところにやってきた」と、ポテバルに訴えました。

1月

17日 礼拝メッセージ例

本当はそんなことはしていないのに、嘘をつかれたのです、ヨセフが逃げ出すときに取られた上着が証拠に使われました。

もちろんポテパルはカンカンになっておきました。本当ならこういうときには死刑になってもおかしくないくらいでした。でも、ポテパルはおこりながら心の中で迷っていたでしょう。「待てよ、あんなに真面目にがんばって仕事をするヨセフがそんなことするだろうか。妻の言うことは本当だろうか……」それでポテパルはヨセフを監獄に入れるだけにしました。ふつうよりもずっと軽い刑罰で済ませたのです。

どこにいても主がともにおられる

みなさんだったらどうですか。いっしょうけんめい働いていたのに、やってもいないことで捕まって監獄に入れられたら。「もう神様なんか信じないよ！」という気持ちになりませんか。でもヨセフはそんな気持ちにはなりませんでした。主である神様が監獄の中にもともにおられたからです。

神様はヨセフに恵みを与え、監獄の長の心になうよ

うにしました。すると監獄の長はヨセフに、監獄の中の他の囚人たちをまとめる仕事を任せました。神様は監獄の中でもヨセフを成功させてくださったのです。

この監獄は王様の囚人を入れておく監獄でした。このことがあとになってびつくりするような物語につながっていきます。続きは来週をお楽しみに。

さて、きょうのお話のヨセフには、いいことと悪いことが次々におこりました。おこった出来事だけを見ると大変だなと思います。でも、どんなことがおこってもずっと変わらないこともありました。それは主である神様がともにいてくださったということです。

神様がいっしょにいればどんなに成功していても心配です。でも神様がいっしょなら、牢獄でもあわてることがありません。わたしたちにとっても大切なことは同じです。神様がいっしょにいてくださるかどうかわかりません。

♪主は今生きておられる♪(PW49)

聖書 創世記39・19～23 テーマ ヨセフ②

序論

(石田高保)

アブラハムに与えられた神の祝福は、イサク、ヤコブへと継承されました。ヤコブの12人の子どもたちはイスラエル12部族の先祖になるわけで、彼ら一人ひとりとは神の祝福を受け継ぎました。しかしその中で最も祝福されたのは11番目のヨセフです。彼の青年期は苦しみの連続でしたが、祝福も並はずれていました。

一、境遇にうち勝つ

ヨセフはヤコブの特別な愛情を受け、えこひいきされたので、お兄たちから妬まれました。また正義感が強かったため、彼らの悪い行いを父に告げ口しました。そういうことから兄たちに憎まれて、ついに奴隷として売り飛ばされることに至ります。このとき17才で、彼の青春は悲惨な境遇から始まります。彼はエジプト王の護衛隊長ポテパルに買われます。彼は王の信任の厚い政府高官です。主人がヨセフに任せた仕事は何でもうまく行くのを見て、これはただ者ではない、この者には神が味方

についていると見抜いたのでしょう。そこで主人はヨセフに自分の家と畑をはじめ全ての財産を任せたところ、それらは驚異的に増えて行きました。そしてついに「彼は持ち物をみなヨセフの手にゆだねて、自分が食べる物のほかは、何をも顧みな」くなりました。ヨセフが奴隷の境遇に落とされながらも主人の信任厚い者となった秘訣は「主がヨセフと共におられた」という言葉に隠されていますがここには二つの意味があります。

まず主が共におられることはヨセフの日常的な体験でした。自分には神がついている、だから神は自分を決して悪いようになさらないとわかっていました。つまり神の摂理に委ねていました。彼は生きて共に働かれる神に信頼することを習慣化していました。ですから彼は主人から言われた以上のことを喜んですることができたのです。「わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている」(ピリピ4・12)とはヨセフにふさわしい言葉ではないでしょうか。

二、誘惑にうち勝つ

では順風満帆かというとそうではありませんでした。

主人の奥さんがヨセフを誘惑してきました。これに對してヨセフは二つの理由を挙げてキツパリと拒んでいきます。彼にとつて奥さんを魅力に感じなかったら誘惑にならないでしょう。第一に姦淫^{かんいん}によつて神と自分とポテパル夫妻を汚すことはできないから。第二に主人の信頼を裏切るわけにはいかないうから。それでもポテパル夫人は毎日言い寄り、ヨセフの服を掴^{つか}んでまで関係を迫ります。しかし彼は毅然としてその場から逃れました。

彼は誰も見ていない所で純潔を守りました。悪魔はいつも隠れたところに誘惑してきます。きよさというものは一人でいる時にこそ試されます。誘惑に勝つ秘訣、それは神の目を意識していることではないでしょうか。

三、迫害にうち勝つ

ポテパル夫人は思いを遂げられないことの腹いせに、ヨセフが乱暴しようとしたと偽つて主人に訴えます。主人はこれを真に受けて激しく怒り、ヨセフを投獄します。一言の弁明も、潔白の訴えも受け入れられませんでした。それでは彼は牢獄で自暴自棄になったでしょうか。むしろ正しいさばきをなさる生ける神に万事をお任せし、そこで与えられた仕事をこれまでと同じように忠実にこな

していききました。主もヨセフと共に働かれ、牢獄でも人々の信頼を勝ち取ります。自由人から奴隷へ、さらに囚人へと身を落としたにもかかわらず、仕事ぶりでも人間関係でも成功し、一目も二目も置かれる存在となりました。

このように自分には何の落ち度がなくとも人から妬まれたり、意地悪をされたり、義のために苦しむことがあるかもしれません。人から身覚えのない噂を立てられたり、誤解されたり、白い目で見られたりしても、最後には公平な決着をつけて下さる神により頼んでいれば間違ひはありません。イエス様も受難の中でこのことを証明されました。「万一義のために苦しむようなことがあつても、あなたがたはさいわいである。彼らを恐れたり、心を乱したりしてはならない。ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい」(イペテロ3・14-15)。ヨセフは無実の罪にも、不遇の中でも腐りませんでした。むしろ置かれた所で最善を尽くしたのです。

結論

〈主がヨセフと共におられた〉ように、私たちも心の内で主をあがめながら、境遇に勝ち、誘惑に勝ち、迫害にうち勝たせていただきますように。

研究資料

(宮澤清志)

ヨセフ物語全体の位置づけについて

まず、W・ブルグマンは、ヨセフ物語を「隠されている神の招き」と題して、以下のように分解している。

37章 夢

38章 (ユダ)

39～41章 ヨセフと帝国 (エジプト)

42～44章 ヨセフと兄弟たち

45章 ヨセフの職務

1～15節 職務の開示

16～20節 職務と帝国 (エジプト)

21～28節 職務と家族

46章～47章28節 エジプトでの定住

47章29節～50章14節 ヤコブの死

50章15～21節 夢の結末

50章22～26節 ヨセフの死と希望

ひと言で言えば、ヨセフの夢を軸にして、その夢の背後におられる神の働きを物語っているのである。

さて、本日の個所であるが、上の梗概にもあるように、

39章はエジプトでのヨセフ、特にヨセフが売られていった先のポテパルの家での出来事と、その後の獄屋での出来事について語られている。本日取り扱う個所は、そのうちの獄屋でのヨセフの様子を描いている。

実は、多くの注解者によって、今日の個所と39・1～6aの個所との類似性が指摘されている。本章のテーマである「主がともにおられた」という言葉が4回にわたって語られる(2、3、21、23)ことも、私たちは見逃してはならない。このみ言葉のヨセフにおける出来事として、6b～18が語られているといえる。説教においては、先週の復習として本章全体に言及する必要がある。したがって準備は本章全体にわたってするべきである。

テキスト

19 多くの注解では、19節を前の段落に組み入れている。確かに内容的には18節に続くものとして見る事ができる。

激しく怒った この個所だけを見るならば、ポテパルは誰に対して怒っているのが不明確である。一見すれば、この「怒り」はヨセフに対する怒りと見ることもで

きるが、その後のこの問題に対する処理の仕方、特にヨセフの扱い方を見る限り、一概にはヨセフに対する怒りと見ることは無理がある。

20 姦淫かんいんは、イスラエルでは極刑に価する重罪であった。特に、夫のある女との姦淫は、2人とも死刑にされる。しかし、この主人はヨセフを極刑ではなく投獄にする。これは処分としては明らかに軽い処分である。一つには、主人のヨセフに対する信任が厚かったがゆえの寛大な処分であろうという見方もある。一方前節とのつながりからいえば、前節の主人の怒りはヨセフに対するものではなく妻に対するものであり、投獄は外面を取り繕うためであるとする見方もできる。いずれにしてもこの処罰は非常に寛大な、軽い処罰であった。獄屋ごくやに投げ入れた直訳は「獄屋に置いた」。この表現は、必ずしも入獄を意味する言葉ではない。獄屋 語源としては、円形の建築物を指している。七十人訳聖書では「砦」とある。また、このような監獄に送り込まれた囚人たちは、強制労働をさせられたことが知られている。また、この獄屋は自衛長ポテパルの家にあつたといわれており(40・3)、ポテパルはこの獄屋の最高責任者であつたとも考えるこ

とができる。

21〜23 インマヌエルの主の臨在が語られる。実は、冒頭に述べたように、この箇所は本章1〜6節の焼き直してしての性格を有している。主がヨセフとともにおられたということは、ポテパルの家でも(4〜6)、そして獄屋の中でも共通している。その結果、ヨセフはポテパルの家でもその持ち物の管理を委ねられたように(6)、ここでも獄屋の管理を委ねられたのである。このことはヨセフ物語全体を貫くテーマでもある。

21 獄屋番の恵みをうけさせられた ポテパルの家でも同様のことが語られる(4)。一方で、詩篇105・18で述べられている現実には、ヨセフがおだやかに収監されているという考え方を訂正させるものである。

22〜23 本章4b〜6節参照。ポテパルの家で用いられたヨセフの立場は、監獄の中で再現される。この言葉は次週へと引き継がれる(41・40、44)。すべて 獄屋番の、ヨセフに対する信任の厚さを物語っている。

参考図書 1月10日分に加え、W・ブルグマン「現代

聖書注解 創世記」(日本基督教団出版局)

聖書

創世記41・37～49

タイトル

聖霊に導かれる生涯（ヨセフ物語③）

暗唱聖句

われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか。

創世記41・38

目標

聖霊を宿し、聖霊に導かれる生涯の幸いを覚える。

導入

（松浦みち子）

先週は、ヨセフが牢屋に入れられたお話しでしたね。ヨセフは牢屋の中でも神様に信頼したので、神様がヨセフと共にいられて守ってくださいました。ヨセフはいっただで牢屋で過ごすのでしょうか。出て来ることができるのでしょうか？

パロ王様の夢

ヨセフはある日、思いがけず牢屋から出されることになりました。日の射さない薄暗い地下牢に、パロの王様の使いが息もつかせぬ勢いで「ヨセフはどこだあー」と突然やってきたのです。「ここにおりますー!」と、答えるやいなやヨセフは牢屋から出され、ひげをそり、新しい

服を着て王様の前に立ちました。「ヨセフ、おまえは聞くとところによると、夢を説き明かすことができるそうだね」と、王様が尋ねると「いいえ王様、わたしではありません。神様が教えてくださるのです」と、きっぱり答えました。

「そうか!」王様は悩ましい顔をしながら見た夢の話をしました。そして「誰ひとり、わたしにそのわけを示す者がいない。ヨセフ、お願いだ。どういうわけなのか教えてくれ」。ヨセフは答えました。「王様、この夢は神様がこれから起きることを教えてくださったのです。七頭の牛は七年間のことです。これから七年間は畑で野菜や麦が大豊作となります。けれども、その後の七年間は雨が降らず、飢饉となります。ですから王様、賢い人を大臣にして七年の豊作の間にたくさん食糧を蓄えておくことよいでしょう。そうすれば、この国は飢饉で滅びることはいないでしょう」。

大臣になったヨセフ

ヨセフの説き明かしを聞いた王様とすべての家来たちは皆、ああ、そうなのか! と感心しました。王様は家来たちに、「神の霊をもつこのような人を、ほかに見つけ

ることができるだろうか」と言い、ヨセフの方を向いて、「ヨセフ、神様があなたにこれらのことを教えられたのだから、あなたのように賢い人はいない。あなたをわたしの宮廷の責任者とする。わが国民は皆、あなたの言葉に従うでしょう。ただ王の位にあるということだけで、わたしはあなたの上に立つ」と言いました。パロはさらにヨセフに「わたしはあなたをエジプト全国のかさとする」と言い、自分の指輪をはずして、ヨセフの指にはめ、亜麻布の衣服を着せ、金の首飾りをヨセフの首にかけました。そして、ヨセフを王の第二の車に乗せると、「ひざまずけ」と人々に呼ばわらせ、ヨセフをエジプト全国のかさとしました。さらに王様はヨセフにこう言いました。「わたしはパロである。あなたの許しなしには、エジプト全国で、だれも、手足をあげてはならない」。

溢れる祝福の裏り

パロはヨセフにザフナテ・パネアという名を与え、祭司の娘のアセナテを妻として与えました。奴隷として売られてきたヨセフにとってエジプトは天涯孤独な地でしたが、やがて二人の子も与えられて、神様はヨセフに家庭の喜びを与えてくださったのです。

ヨセフがパロ王様の前に立った時は30歳でした。神の知恵と力に満たされたヨセフはエジプト全国をくまなく巡回し、国造りに励みました。パロ王様の見た夢のように七年の豊作のあいだ、大地は豊かな実りに満ち溢れました。そこでヨセフは、町の周囲の畑でできた食糧を、その町の中に蓄えさせたのです。エジプト全国の町々は蓄えた食糧で満ち溢れ、海の砂のように多く蓄えたのでついに量りきれなくなつて量るのをやめるほどでした。

これらは、夢物語でなく、エジプトの歴史に残る実際の出来事です。奴隷がエジプトの王位に次ぐつかさとなつて国を支配する！ 薄暗い牢の中で過ごしたヨセフの人生に、電光石火のたとえのように、起こったできごとでした。まさに、神ご自身の業でした。

長い人生に何が待っているか誰もわかりません。出口の見えないトンネルを通るかもしれません。あなたは気付かないでしょうが、お母さんのお腹の中にいる時から神様はあなたを見ておられるのです。神様を信じて神様と共に歩みましょう。きっと、神様はあなたを祝福され、幸福な人生を歩ませてくださるでしょう。

♪主イエスとともに♪（ふ90、ホ18、イン80）

聖書 創世記41・37〜49
テーマ ヨセフ③

序論

(石田高保)

雌伏千年、雄飛万年という言葉がありますが、実にヨセフのような人物のためにあるような言葉です。しかも彼を大成功に導いたものは偶然や運ではなく、ご自分の計画の中で入念に頃合いを見計らっておられた神です。

一、逆境への対処法

ヨセフは無実の罪を着せられて投獄されましたが、そこで神の救いを待ち望みながら日常の務めを営々と果たしていました。しかも獄屋番の厚い信用を得て、牢獄の管理を任せられるほどになりました。そんなある日、エジプト王の給仕役と料理役とが王の怒りを買って投獄されてきます。彼らは王の側近で、政治顧問でもあります。ある夜二人とも意味ありげな夢を見ましたが、その意味が分からないので悩んでいました。ヨセフは夢解きのできる知恵を授かっていたので、二人の夢を解いてあげます。給仕役は三日目に元の地位に戻されるという解き明かしであり、料理役のほうは三日目に処刑されるという

解き明かしでした。そこでヨセフは給仕役に元の地位に戻れたら、釈放されるように王に取りなして欲しいとお願ひします。そして三日たったら果たしてヨセフの言うとおり釈放になりました。ところが給仕役はあろうことか「ヨセフを思い出さず、忘れてしまった」(40・23)。何日、何週間、何ヶ月待っても何の音沙汰もなく、とうとう二年が過ぎてしまいます。この二年間はそれ以前の11年間に増して苦しい時期だったと思われれます。このようにヨセフは兄たちには見捨てられ、主人の妻からは欺かれ、助けた給仕役からは忘れられるという理不尽な扱いに苦しみます。

私たちも人から忘れられ、感謝もされないように思うときがあるでしょう。しかし神は決して私たちを忘れないません。神の目は一瞬たりとも私たちから目を離さないからです。「女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあろうか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない」(イザヤ49・15)とあるようにです。

二、順境への対処法

給仕役の長が出獄してから二年後、王は意味のある夢

を見ましたが、エジプト最高の学者たちもそれを解くことができません。そのとき給仕役の長はヨセフに夢を解いてもらったことと、釈放の取りなしをする約束を思い出しました。そのことを王に伝えようと、すぐにヨセフが牢獄から召し出され、王の夢を見事に解き明かしました。それは神が七年の大豊作の後、七年の大凶作をもたらそうとしていることだと。さらにヨセフは、七年後に来る飢饉に備えて食糧を備蓄するように助言します。すると王は彼の知恵に驚嘆し、すぐにヨセフを総理大臣に任命して国家の運営を任せることにします。ヨセフの知恵はエジプトの王をして、〈われわれは神の霊をもつこのよ
うな人を、ほかに見いだし得ようか〉と言わしめました。彼が世に出たのは奴隷に売られてから苦節13年、30才の時です。朝は囚人、夕には宰相などという大出世を遂げた人物は、歴史上ヨセフ以外にいないでしょう。実に神の特別な介入なくしてはあり得ない展開です。ヨセフの生涯に神の生きておられることを見るべきです。

ヨセフは過酷な境遇を通った苦労人です。しかも全てをご存じで正しくさばいて下さる神を当てにしながら最善を尽くすという神の訓練をパスしました。これらの境

遇と苦労はみな、エジプトを治めるためのトレーニングでした。さらにヨセフが総理大臣になることによって、やがてヤコブ一族が激しい飢饉から救われ、エジプトで数百万のイスラエル民族を形成することになります。つまりヨセフの生涯は、イエス・キリストに至って成就する救いのご計画に組み込まれていたわけです。ヨセフは自分の功績ではなく、神がして下さった一切が神の恵み、神のおかげであると感謝して、あくまでも神に引き上げられたことを忘れなかったでしょう。

結論

順調なときは自分が努力したからだ、心掛けが良かったからだ、忍耐したからだと考えやすいものです。しかしそのようなときでも高慢にならない秘訣は、滅びに向かう人生から引き上げられたことを思い出し、「神の恵みによって、わたしは今日あるを得ている」(イコリント15・10)と、神に栄光を帰することではないでしょうか。神の知恵をいただきながら家を治め、仕事に励み、人と関われれば、神と人ともに喜ばれます。うまくいっているときこそ、神の前には何者でもないことを思い起こそうではありませんか。

研究資料

(宮澤清志)

絶対的に権力を持つ王政に、囚人の声が届き、王は王朝と国政の担当者としてヨセフを直ちに採用する。「われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか」。

テキスト

37 目になかった 新共同訳では「感心した」とある。パロとその家来たちは、これまでヨセフが語ってきた夢の解き明かしの重大性を考えた。今、目の前にいる人物がヘブル人の奴隷であること、そして今まで獄屋につながれていた人物であることはすっかり忘れられている。

38 神の霊 これはパロの言葉であるから、ここでいう「神」は、おそらくは多神教の神のことを指していたと考えられる。しかしパロは、これまでのヨセフの夢の解き明かしと英明な助言のうちに、ヨセフの上に働かれる超自然的な神の存在を見たのではなからうか。

39 賢い 「手腕がある」という意味である。このような管理能力という点ではヨセフは最適であると、パロやその家来たちは納得したのである。

40 あなたはわたしの家を治めてください ヨセフに与えられた位は、パロ自身の代理であり、総理大臣であり、また王宮を治める宮内大臣としての地位も兼ねていた。しかし、「わたしの家」を限定的にとらえる立場もある。その場合は、ヨセフはエジプトの穀物倉の監督と、また王の直轄地の監督として立てられた程度の地位となる。

あなたの言葉に従う 「従う」を直訳すると「敬意を表す」という意味になる。この言葉のものと意味は「口づけをする」という意味であり、これは、当時の習慣であった「敬意を表す口づけ」を意味しているものと推測できる。

42 45 ヨセフの大臣としての就任式の様子が描かれる。 ヨセフに対する個人的な夢(37・7、9)とパロに対する公の夢(41・2・7、17・24)とを成就する神によつて、これから先の事態はもたらされる。パロもヨセフもそのことを受け入れる。だからパロもヨセフをことさらに説得することもなく、またヨセフも抵抗したり、あるいは説得を必要としたりはしない。言葉はもう必要としないのである。

42 指輪 新共同訳では「印章のついた指輪」とあり、

王印の刻み込まれた指輪のことであろう。この印は、王の書状に押す印としての役目をもっていて（エステル 3・12）、これは王の權威をもった指輪である。ただし、これは必ずしもヨセフひとりに託されたものではない。**亜麻布の衣服** 宮廷や法廷などで着用する衣服。**金の鎖** 新改訳や新共同訳では「金の首飾り」。王に重んじられていることを表すしるしとして早くから用いられていたようである。

43 自分の第二の車 「第二の」とは官職。すなわちここではパロに次ぐ者、エジプト全土の中でパロに次ぐ地位であることを主張するものであろう。**ひざまずけ** 新共同では「アブレク（敬礼）」とある。新英訳「道をあけよ」、シュパイザー「気をつけよ」など、確かな意味は不明であるが、エジプト絵画に描かれた礼儀作法を表しているという説がある。

44 ヨセフの知恵に対するパロの絶大な信頼を表した言葉 であろう。

45 ザフナテ・パネア パロが与えたヨセフのエジプト名。外国人にエジプト名を与えることはよくあることであつたようである。この名の意味は不明であるが、「神

は語ったので、彼は生きる」「物事を知っている者」など、様々な説がある。**オン** 太陽神ラー礼拝の中心都市。その祭司はエリート中のエリート。

46 三十歳 ヨセフの年齢が記録されている。ヨセフ物語は、ヨセフが17歳の時から始まる（37・2）。その後、13年を経過してヨセフはエジプトの宰相となる。その後更に9年の時を経て、ヨセフが17歳の時に見た夢が実現する。創世記の族長の物語は、アブラハムに対する約束とその成就（12・4、21・5）、ヤコブのラバンのもとでの長い忍耐（31・41）と、ヨセフの非常に長い忍耐を要する物語でもあった。しかし、最終的にはその約束は成就され、いずれも豊かに結実した。**エジプト全国をあまねく巡った** ヨセフ自身がこの国を管理するために労を惜しまず行つたことを示す。

47 49 パロの夢に見た、最初の7年の豊作の様子が描かれる。主がパロの夢を通して示された事は、すべて間違ひなく成就していった。従つて、そのための対応策も滞りなく進められた。エジプトの各地に倉が置かれ、食糧が蓄えられることになる。詳細は34 37節参照。

参考図書 1月10日分と同じ。

聖書

創世記45・1～15

タイトル

最善に導かれる神（ヨセフ物語④）

暗唱聖句

それゆえわたしをここにつかわしたのは
あなたがたではなく、神です。

創世記45・8

目標

摂理の御手で最善に導かれる神を信じる。

導入

（松浦みち子）

二〇二〇年の年明けから、コロナウイルスによる感染症が全世界にあつという間に広がり、私たちの毎日の生活が一変しましたね。このように思いがけないことがわたしたちにも襲ってくる場合があります。ヨセフの生涯にもいろいろなことが起こりました。いよいよ物語の最終回です。エジプトの大臣となったヨセフのもとにある人々が訪ねて来たのです。いったい誰でしょう？

エジプトにきた兄弟

ヨセフの生まれ故郷カナンでも、飢饉が起こり、エジプトに行けば食糧が買えるという噂を聞いたお父さんのヤコブは、お兄さん達をエジプトに行かせました。

まさかエジプトの大臣がヨセフだとは夢にも思わないお兄さんたちは、「わたしたちはカナン地方から来たものでございます。どうか食糧を売ってください」と地面に頭をすりつけてお願いしました。ヨセフはすぐに兄たちだと気づきましたが彼らは気づきませんでした。そのとき、ヨセフは子どもころ、兄たちについて見た夢を思い出しました。ヨセフは「お前たちは、回し者だ。この国のすきをうかがうために来た者だ！」と、わざと荒々しく言いました。「いいえ、わたしたちは決して怪しいものではありません。カナンに住む父親と12人の兄弟です。末の弟は、今、父のもとにいますが、もう一人は失いました。」「お前たちが回し者でないという証拠に、末弟を連れてこい。それまで牢獄に監禁しておく」。やがて同じ母から生まれたベニヤミンが兄に連れられてヨセフのもとに姿を現しました。ヨセフは彼らとのやり取りを通して、かつてのお兄さんたちの心が変わえられ、父をいたわり、弟を慈しむ者になっていることを知って胸がいっぱいになりました。

自分を明かすヨセフ

ヨセフは自分の気持ちを抑えることができなくなり、そばで仕えている者たちに「みんな、ここから出て行つてく

れ」と呼びました。誰もいなくなつてから、ヨセフは自分の身分を兄弟たちに明かしました。そして我慢できずに声をあげて泣きました。「お兄さん、わたしはヨセフです。お父さんはまだ生きておられますか」。兄弟たちは驚きのあまり、ただただヨセフを見つめて立ち尽くしているばかりです。

和解と神のご計画

「どうか、もっとそばに近寄ってください。」「わたしはあなたがエジプトへ売った弟ヨセフです。しかし、今は、わたしをここへ売ったことを悔やんだり、責め合つたりする必要はありません。命を救うために、神様がわたしをあなたたちより先にお遣わしになったのです。飢饉はまだ続きます。神様がわたしを先にお遣わしになったのは、この国にあなたたちの子孫を残すため、また大いなる救いをもってあなたがたを生きながらえさせるためです。わたしをここに遣わしたのは、神様です。神様がわたしをパロの大臣として、宮廷全体の主、エジプト全国を治める者とされたのです。さあ、急いでお父さんのもとへ帰つて、伝えてください。『息子のヨセフがこう言っています。神が、わたしを全エジプトの主としてくださいました。ため

らわずに、わたしのところへおいでください。そしてゴセンの地域に住んでください。そうすればあなたも、あなたの子らも孫たちも、羊も牛もそのほかすべてのものも、わたしの近くで暮らすことができます。飢饉はなお5年つづきますから、あなたも、家族も、その他のものも、みな困らないように、私はそこで養いましょう』。さあ、兄さんたちもベニヤミンも、自分の目で見てください。エジプトでわたしが受けているすべての栄誉と、あなたがたが見たすべてのことを父に話して、急いでここに連れてきてください。『こう言い終わるとヨセフは弟ベニヤミンの首を抱いて泣きました。また、他の兄弟たちとも和解し、互いに抱き合い語り合いました。やがて、父ヤコブはヨセフのもとに身を寄せ、ヤコブ一族総勢70名はエジプトで暮らすように導かれたのです。時に父ヤコブは130歳でした。

神様のご計画は、人の思いを超えてなんと素晴らしいことでしょう。夢見る少年ヨセフは、兄たちの反感を買う態度で夢を語りました。しかし、今ではすっかり砕かれ、自分の願いや思いでなく、神のみこころを第一とする者に変えられ神に用いられました。ハレルヤ！

♪主にしたがうことは♪（こ改119、こ53、ホ87他）

聖書 創世記45・1～15 テーマ ヨセフ④

序論

(石田高保)

45章に入ってヨセフの伝記も大団円を迎えます。事実の重みとそれを導かれた神の摂理に圧倒されます。しかし彼のように神様とつながって歩むとき、私たちの生活と人生にも起こり得ることです。

一、和解の準備

お兄さんたちは食料をろばに積み、エジプトを出発しました。ヨセフは受け取った穀物の代金をお兄さんたちの袋に入れさせ、ベニヤミンの袋にはヨセフの銀の杯も一緒に納めさせます。これはお兄さんたちがベニヤミンをどう取り扱うかを試すためでした。彼らが町を出て、まだ遠くへ行かないうちに、ヨセフは家臣に彼らの後を追いつ、銀の杯を捜させます。兄たちは全く身に覚えのないことなので当惑しました。それぞれの袋が調べられるとベニヤミンの袋から銀の杯が出てきました。ユダは「神がしもべらの罪をあばかれました」(44・16)と罪の自覚に導かれています。全員が奴隸になることを申し出

ますが、ヨセフは杯が見つけられたベニヤミンだけが奴隸になればよいと言います。ユダは今日までのいきさつを述べつつ、自分は父にベニヤミンの身を請け負ったこと、もしそれがかなわないなら、自分は生涯その罪を負い続ける覚悟であると申し出ます。ユダの「どうか、しもべをこの子供の代りに、わが主の奴隸としてとどまらせ：父が災に会うのを見るに忍びません」(44・33～34)という嘆願にヨセフはこころ打たれます。

ヨセフはこの一言を聞いてどんなに感動し、満足したことでしょうか。もうこれ以上、兄たちの心を試す必要はなくなりました。ついに彼は「自分を制しきれなくなり、(声をあげて泣き、)わたしはヨセフです」と自分の身を明かしました。自分たちの売り飛ばしたヨセフが生きていたこと、奴隸のはずのヨセフが総理大臣その人であることの事実に見たちは気が遠くなりました。同時にヨセフから復讐を受けるのではないかと恐れました。ヨセフは言います「神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです」。後年、彼は同じようなことを言っています。「あなたがたはわたしに對して悪をたくらんだが、神はそれを良きに変らせて、

今日のように多くの民の命を救おうと計られました」(50・20)。ここでヨセフが兄たちに復讐せず、かえってやさしく慰めているのはなぜでしょうか。

二、和解の成立

ヨセフは神の約束を信じたイサク、ヤコブの生涯を見て育ちました。ですからどんな苦しみの中にあっても、神はその約束を成就されることを知っていたのです。私たちは苦しみにあうと神が真実でないかのように思いがちです。見えるところの人生は織物の裏側のようなもので、どんな柄かわかりませんが、出来上がった織物を表から見ると、絵柄が完成しています。私たちの人生を支配しているのも運命ではありません。また兄たちのような悪巧みや憎しみが支配するのではありません。さらに人間の計画が支配するのでもないのです。〈それゆえわたしをここにたしかめたのはあなたではなく、神です〉と言ったように、私たちが導いているのは神であり、私たちそれぞれに神の愛の計画が用意されています。しかし自動的にそれに与るというのではなく、意識的に神の計画に協力するのです。「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働

いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」(ローマ8・28)。

恵みというのは、取引ではなく、ギブアンドテイクでもなく、一方的に与えられる神の贈り物です。奴隷に売られたヨセフが、めぐり巡ってエジプトの総理大臣となり、周辺諸国に対しても祝福となるというのは、まさに圧倒的な神の恩寵でした。ヨセフはこのことを知るゆえに、兄弟に対して復讐ではなく、恵みをもって臨むことができました。神はヨセフをエジプトに送ることによってヤコブとその一族を救い、大いなる国民としようと思われました。ヨセフはその神の計画を悟ったゆえに、兄弟の罪を赦ゆるせたのです。

結論

さて私たちの生活と人生をも神様は最善に導こうとしておられます。しかし最善でない選択肢も少なからずあります。自分の人間的な思いやこの世からの圧力もあります。物事の選択に当たってはまずは祈りをもって主の声を聴き、聖書から導きを求めましょう。またひとりだけで決断するのではなく、できるだけキリストのからだである信仰の仲間からも知恵を借りましょう。

研究資料

(宮澤清志)

4つの主日にわたって眺めてきた「ヨセフ物語」もいよいよクライマックスを迎える。

テキスト

1 自分を制しきれなくなった このような感情の乱れはこれで三度目(42・24、43・30)。前回までと異なり、ここでヨセフはエジプト人の従者を退出させる。ヨセフがこれから家族に自らの素性を明かすための行為。

3 父はまだ生きながらえていますか ヨセフは父ヤコブが生きていることを知っているはずであるが(43・27、28)、「生きている」ということは、健康であること、幸福であることをも含んでいる言葉なのである。

4・8 この個所は、ヨセフ物語全体の肝である。 この個所でヨセフは、「あなたがたは」と、繰り返し兄たちの関与を主張する。ヨセフは兄弟たちのしたことを決して軽視することはない。事実をありのまま兄弟たちに伝える。同時に「神は」と、「あなたがた」の背後に神が摂理のみ手を伸ばして働いておられることを指摘する。兄たちの「悪」の背後には、神の「摂理」があったのである。

4 あなたがたがエジプトに売った 兄たちがしたこと
を思い起こさせる意味を持つ。同時に驚き恐れ(3)で
混乱し、狼狽した兄たちを安心させるには非常に適切な
言葉でもあった。

5 神は命を救うために……わたしをつかわされた 神の
摂理が働かれていることを示す個所のひとつである。一
方では人間の誤った働き(と自然の見通しのきかない働
き)があり、他方では神の完璧な意志がある。その中で
も神の意志にのみ私たちは注目すべきである。

6 耕すことも刈り入れることもない 飢饉であること
は、耕作をしているにもかかわらず収穫のないことを指
す。必ずしも耕作を放棄しているわけではない。

7 あなたがたのすえ 新改訳や新共同訳では「残りの
者」と訳されている。この言葉は、英語のいくつかの訳
では「レムナント」という言葉が用いられている。この
「レムナント(残りの民)」の思想は、旧約聖書の一貫し
たテーマである。ノアの洪水の物語は、人類の新しい出
発のために救出された神の召しであり、アブラハムの物
語もバベルの塔の混乱を乗り越えてすべての人の祝福の
基となるための神の召しであった。そしてヨセフの救出

も残りの者の救出のための神のわざであった。

8 パロの父 大臣や高位の役人に認められた称号であろう。パロに対する父親的な助言を求められる人としての意味もあつたであろう。王の顧問、相談役。

9～13 ヨセフの父への伝言の言葉。

9 急ぎ上って これまでは、あまりの出来事に驚き恐れて(3)現実のものと思われなかつたであろう兄たちを、現実の世界へと引き戻すには必要な言葉だつたであろう。同じ言葉は13節にも繰り返されており、ことの緊急性をうかがわせる。

10 ゴセンの地 エジプトの遺跡としては場所の特定はされていない。しかし、聖書中に推測できることはごくつかある。この地は、この節では「わたしの近く」であるとされており、また同じ創世記47・11には「ラメセスの地」と呼ばれていることから、王の都から遠くなく、また「よい地」(47・6)とされていることから、ナイルのデルタの東側にあつたとされている。

11 ききんはなお五年つづきますから… ヨセフは、飢饉がまだ初期の段階にあり、このままではヤコブもその家族も生存できないと判断する。それゆえヨセフは「急

ぎ」という言葉と共に、その計画の確実な実現を図ることに焦点をあわせているのである。なお、13節までのヨセフの要請は、16節以下のパロの命令によって裏付けられている。

14～15 ヨセフ、兄弟たちと語り合う。ヨセフは末の弟ベニヤミンとは首を抱いて泣いた(14)とある。またベニヤミンもまたヨセフを抱いて泣いたとある。この抱擁は、激情を含んだ表現である。また兄弟たちはヨセフと語った(15)とある。具体的な内容には触れていない。ただ、これまでの二十年あまりの時の流れを考えると、この間の出来事を分かち合つたとも考えられる。

また、15節のヨセフと兄弟たちとの接触の中で、抱いて泣いたのはヨセフであつて、兄弟たちの反応は記されていない。「感動の対面」を果たしているのはヨセフとベニヤミンだけであると推測できる。兄たちは素直に感情を表現できないのかもしれない。これまでのヨセフの言動や自分たちがヨセフに対してした行為、あるいは彼らに対するヨセフの態度に何かひっかかるものがあるのかもしれない。

参考図書 1月10日分と同じ。

聖書

出エジプト2・1～10

タイトル

モーセの誕生

暗唱聖句

信仰によって、モーセの生れたとき、両親は、三か月のあいだ彼を隠した。

へブル11・23

目標

危機の中で、信仰によって神の助けを求める。

導入

(土屋開夫)

2月になりましたね。この中で2月生まれの人いますか？ おめでとうございます！ まあ何月に生まれたとしても、人間が生まれるっていう事はおめでたい事ですね。

全ての人にとって確かなことが三つあります。

- ① 全ての人は、神様によって命を与えられた、という事。
- ② 全ての人は、神様によって愛されている、という事。
- ③ 全ての人は、神様によって役目を与えられている、という事。だから一人一人は、とっても大切です！

先月のヨセフのお話

さて、1月は創世記のヨセフさんのお話でしたね。

ヨセフさんにもとっても大事な役目が与えられていましたね。覚えていますか？ ヨセフさんは神様の不思議な計画で、エジプトで一番偉い大臣になって、お父さんのイスラエルと兄弟たちを養い、救う事となったのです。そのお陰でイスラエルの一族は飢饉で飢え死にすることなく、たくさん子孫が増えました。

さあ、それから長い時が過ぎ、イスラエルの子孫たちはいつの間にか、エジプトで奴隷として働かせられるようになっていました。

以前のエジプトの王様は親切で、イスラエルの家族をお客様として扱ってくれました。でも、この時の王様は悪い王様で、イスラエルの一族を苦しめ、もう人数がこれ以上増えないようにと、なんと、男の子の赤ちゃんが生まれたら殺してしまえっ、と命令したのです！

モーセの誕生と両親の信仰

そんな恐ろしい時代の中で、かの有名なモーセさんが生まれました！ さあ、でも大変です。だってイスラエルの一族に男の赤ちゃんが生れたら殺されてしまうのです！

お父さんとお母さんはどうしたでしょう？ 今日の暗

2月

7日 礼拝メッセージ例

唱聖句を見てください。

「信仰によって、モーセの生れたとき、両親は、三か月のあいだ彼を隠した。」（ヘブル11・23）

お父さんお母さんは、勿論、可愛い赤ちゃんを殺すことなんて出来ません。それだけでなく、最初に言った通り、「この子は、①神様が命を与え、②神様に愛されている子だ。③そして、きつと大事な役目があるに違いない」と「信仰によって」思ったことでしょう！

だから、その子を守るために、三か月のあいだ隠して育てたのです。けれども、いつまでも隠すことは出来ません。そこで、なんと赤ちゃんをかごの中に入れ（水が入り込まないようにして）、なんと川岸の草の中にそっと置いたのです！

お父さんお母さんにしてみれば、すごく勇気のいる行動だったと思います。心配でたまらなかった事でしょう。けれども、全ての子どもは神様の子どもです。お父さんお母さんは精一杯、子どもを守り育てますが、最後の部分は、神様に全くと任せするしかないのです。「主よ、この子はあなたの子どもです。あなたがこの子を守り、その命も、人生も導いて下さい！」と。

結果、この赤ちゃんはエジプトの王様の娘に拾われ、成長し、やがてイスラエルの一族をエジプトから救い出すという、神様からの大事な役目を果たすのです。

あなたにも

さあ、今度はあなたの話です。神様から大切な役目を与えられているのは、モーセさんやヨセフさんだけではありません。あなたにも神様から与えられる大切な役目があるのです！

勿論それは、モーセさんのように何百万人もの人をエジプトから脱出させるような、そんな大仕事ではないかも知れません。もしかしたら一匹の羊を救い出すような役目かも知れません。

そして今はまだ、それが何か分からないかも知れません。モーセさんだつて80歳でやっと分かったのです。

今からお祈りしておきましょう。「天のお父様、私をとつても愛して、生まれさせて下さった事を感謝します。この私も、神様のために用いてください。アーメン。」

♪明日に向かいチャレンジ♪（PW58）

聖書 出エジプト2・1～10 テーマ モーセの誕生

序論

(宮澤清志)

やがてイスラエルの民をエジプトから導き出す指導者として用いられるモーセですが、その誕生の時から人知を超えた神の救いの手が働いていました。また、危機の中で信仰を働かせた人たちがいました。

一、危機の中でただ主に委ねる

創世記の最後に、エジプトに移り住んだヤコブの子孫は大いに増えました。これを恐れた新しい王は、ヘブルびとを奴隷として苦しめました。それでもヘブルびとは増え、非常に強くなりました。そこで、王は生まれてくるヘブルびとの男の子はナイル川に投げ込むように命じました。その状況の中でモーセは生まれました。

両親は生まれた男の子を救う決心をし、「信仰によって」(ヘブル11・23)三カ月の間、隠していましたが、成長するにつれて隠しきれなくなりました。

男の子はパロの命令に従ってナイル川に連れてこられ

ました。ただ、両親は子どもを主の手に委ね、パピルスで編んだかごに入れて、葦の茂みに置きました。

〈かご〉と訳されている言葉は、ノアの洪水の「箱舟」と同じ言葉です。動力も舵もたず、ただ流れに任せるままの乗り物です。しかし、ノアもモーセの両親も信仰をもって、最善をなされる主の手にすべてを委ねました。またノアが鳩を放つて確かめたように、ここでは、モーセの姉がこの男の子がどうなるのかを見守っていました。

二、危機の中に備えられた救いの道

そこに王女(パロの娘)が身を洗うために、川に降りてきました。そしてかごと、その中の子どもを見つけました。顔つきで分かったのか、身を包んでいた布の柄やデザインで気づいたのか、王女はその男の子がヘブルびとの子であることに気づきました。

王女もパロの命令は知っており、〈かわいいそうに〉思ったところに、モーセの姉が近寄って〈あなたのために、この子に乳を飲ませるうばを呼んでまいりましょうか〉と声をかけました。

まだ王女は、その子をどうするか決めていませんでしたが、もうすでにその赤ちゃんの責任を王女が持つていくのかのような声掛けに、王女は決心してその言葉に従いました。

王女が川に降りてきたタイミングと、そのあわれみの心を主は備えておられました。また、見守っていた姉に、恐れないで王女に声をかけ最善の言葉を口にする知恵を与えられたのも主です。両親から始まって、危機の中でも危機を恐れず主を畏れる^{おそ}人が、祈り決心して行動する時、主はまことの神を知らない者をも思わぬ協力者として用い、救いの道を備えてくださいます。

三、危機を祝福に変えられる主

バロの命令は、エジプト中のすべての民に向けられていましたが、王女は従う必要がありませんでした。結果、男の子はモーセと名付けられて、宮中での教育と訓練を受けることができ、やがてイスラエルの民を率いるのに役立てることができました。

また、幼少時に母のもとで育てられたことにより、主を畏れる信仰の土台が据えられました。ナイル川に流さ

れて終わるはずだった赤ん坊の生涯は、主の不思議な手によって、信仰の基礎と最高の教育を与えられることになりました。

私たちも時に危機的な経験をすることがあります。しかし、イエス様を信じ救われたこと自体が、最大の危機から主の恵みによって救われた経験だったのです。スポーツなどで、「失うものは何もない」と挑戦していく言葉を聞きます。私たちも恵みによって救われ、生かされた者であることをおぼえて、危機の中で主に委ね、また知恵と勇気を与えられて、大胆に主の道に歩むことができるのです。

結論

モーセを水の中から引き出された主は、私たちも罪と滅びの中からすでに救い出してくださいました。なお危機を感じることがあっても、その中で神の守りと助けを経験する者となりましょう。

研究資料

(小平徳行)

へブル人に生れた男の子をナイル川に投げ込めとのパロの布告は将来的にはイスラエルの全滅を意味する。これに抵抗する手段は人間的にはないように思われた。まさにイスラエルは危機を迎えたのであるが、その中で信仰によって歩んだ両親がいた。イスラエルの指導者モーセは、この信仰の中で生かされ、育てられたのである。

テキスト

1 レビの家のひとりの人 出エジプト6・20によれば、これはアムラムであり、**レビの娘** とはヨケベデである。

2 その麗しいのを見て ステパノはモーセについて「まれにみる美しい子であった」(使徒7・20)と表現している。ここは聖書協会共同訳では「神の目に適った美しい子」としており(新改訳2017も類似)、こちらの方がギリシャ語本文に即している。両親は信仰によって、この麗しさは神がこの男の子に特別のご計画を持っている時、非常にな手がかりから神の顧みを信じ、勇気を得ることができる。隠していた この行為は、単

に親としての情からなされたものではなく、神は、この子を顧みてくださるという信仰、さらには、神はご自身の民を必ず守られるという約束に対する信仰による行為であった(へブル11・23)。彼らは「王の命令をも恐れなかった」(同)のである。たとえ危険が伴っても、信仰は行動という結果となって表われる。

3 もう隠しきれなくなったので 3ヶ月になった健康な赤ん坊の泣き声は大きいため、これ以上隠すことは不可能になった。ヨケベデは「ナイル川に投げこめ」というパロの命令の通りにしたが、できる限り生き延びることでできる手段を取った。**パピルス** 茎高約2メートルで葉は毛髪のように頂上に固まって生じる。この茎を編んで、防水のためにアスファルトを塗って舟造った。**かこ**(へティーバー) 創世記6・9章の「箱舟」と同じ言葉。**ナイル川の岸の葦の中においた** おそらく浅瀬であり、かこが流されることがなく、また何もない岸辺よりはワニなどに襲われる危険が少ない場所であった。

4 その姉 ミリアム(民数記26・59)。事の成り行きを見守っていたのは母親でなく姉であった。この時母親は、自分の子を完全に神にゆだねていたのである。

5 身を洗おうと 古代エジプトでは、神聖なナイル川で水浴びすることは、身を清めるだけでなく、寿命を長くすると信じられていた。

6 かわいいそうに思って パロの娘が王の命令にもかかわらず、ヘブル人の子にあわれみの情を抱いたのは女性特有のこまやかな愛情、本能的ともいえる母性愛のゆえであろう。しかし何より、神の御力が暴君の近くににいる人々の心に、善意と柔かな愛を置いたのである。古代エジプトの王女は非常に権勢があつて、王の命令にもかかわらず、ヘブル人の男子を王子のように養育することができたのである。彼女は無意識のうちに神の救いの御計画に参与することになった。

7-9 モーセの姉は、パロの娘が赤子にあわれみの情を抱いたことを知ると、神からの知恵と勇氣を持つて、間髪を入れずに乳母を呼んでくることを申し出た。**わたしはその報酬をさしあげます** 母親は自分の子どもを十分な賃金をもらつて育てることになった。しかもエジプト王家の庇護のもとにあつて、迫害のさなかにも安全に育てることができるようになったのである。後年、モーセはエジプト王家の一員としての扱いを受けながらも、

ヘブル人としての民族感情に燃え、ついにエジプトを向こうに回して戦うようになった。それは、幼い頃ヘブル人である母親ヨケベデに育てられた事が、大きく影響していたと考えられる。この個所には「神」という言葉は出て来ないが、エジプトにおけるイスラエルを深く顧みられる神の御手が背後にあることを強く感じさせる。

10 モーセ (ヘ)モーシエ ここではモーセの名の由来について、パロの娘が水の中から「引き出した」(ヘ)マァーシャー」という語呂合わせから説明されているが、そのモーセは自分の民をエジプトから「引き出した」者でもあつた。この名についてはエジプト語を考慮して、「生む」とか「子」を意味する「メス」に由来するという見方もある。

参考図書 西満「出エジプト記」『新聖書注解・旧約Ⅰ』、安田吉三郎「出エジプト記」『実用聖書注解』(以上、いのちのことば社)、レオ・G・コックス「出エジプト記」『ウェスレアン聖書注解・旧約篇Ⅰ』(イムマヌエル綜合伝道団)他。

聖書

ヨシユア6・1〜20

タイトル

主の勝利

暗唱聖句

そうすれば、町の周囲の石がきは、くず

れ落ち、民はみなただちに進んで、攻め

上ることができ。ヨシユア6・5

目標

人間的な方法でなく、神の方法によって勝利を得る。

導入

(飯田勝彦)

先週は、モーセのことを学びました。今日は、ヨシユアです。ヨシユアはモーセの後、イスラエルのリーダーとなった人です。もし、皆さんがヨシユアだったらどんな気持ちでしょうか。「僕で大丈夫かなあ。みんなは僕の言うことを聞いてくれるかなあ」と心配になりませんか？ ヨシユアも同じ気持ちだったでしょう。でも彼はりっぱにリーダーとしての役目を果たすことができました。

困難という城壁

モーセの後を継いだヨシユアにとって最初の仕事は、ヨルダン川を越えてカナンの地に民を導き入れることで

す。不思議なようにヨルダン川がせき止められ、民は皆、ヨルダン川を渡ることができました。ヨシユアはホッとしたことでしょう。しかし、そこにはエリコの町がありました。エリコの町には大勇士(2)と記されるほどの、勇ましい者たちがいたのです。

ヨシユアはイスラエルの民の力では勝ち目のない大きな相手でした。せっかく約束の地に入ったにも拘わらず、エリコの城壁が困難という大きな壁となって立ちました。

みんなも、「どうしよう。困ったなあ。大丈夫かなあ。」と困難な壁が目の前に立ちあはだかるときがあるでしょう。それは決して特別なことではありません。イエス様は「この世ではなやみがある」(ヨハネ16・33)と言われました。なやみや困難なときにどうするかが大切です。

勝利の約束

強いエリコを目の前にして立ち尽くしていたとき、主がヨシユアに現れて声をかけられました(5・15)。主の言葉を確認しましょう。6・2を見てください。「主はヨシユアに言われた、『見よ、わたしはエリコと、その王および大勇士を、あなたの手にわたしている。』」。

これを見て何か不思議に思うことがないですか？ ヨシユアはまだエリコと戦っていません。でも、主はすでにヨシユアがエリコに勝利することを約束しておられるのです。これはヨシユアが強いからではありません。このエリコの戦いは、主の戦いであり主が勝利して下さることを約束されているのです。

私たちが信頼する主は、いつも私たちより先に、恵みを備えていてくださるお方です。

主はただ勝利の約束をされただけではありません。エリコの町に対してどのように戦ったらいのかを具体的に教えて下さいました。それは、ヨシユアと民で協力してエリコの城壁に上り、町に侵入しひたすら敵と戦え、というものではありませんでした。一日に一回契約の箱と共に角笛を吹きながらエリコの町を一周します。それを6日続けます。そして、7日目には町を7周して祭司たちは角笛を吹き鳴らし、同時に民たちは大声で叫びなさい。そうすると、城壁は崩れエリコの町に入っていき攻撃することができるといふものでした。

これが主の勝利のための作戦だったのです。

信頼して前進

主の勝利の約束は感謝ですが、その作戦を聞くと「本当に勝利できるのかなあ」と思いませんか？ リーダーであるヨシユアはどうしたのでしょうか。彼は、主の命令に従って主の言われる通り祭司や民に伝えました。ヨシユアが主の命令を聞いたとしても、他の者たちも従わなければ意味がありません。この戦いは、みんなの協力が必要でした。幸いに祭司や民たちも主の命令に従って行動したのです。その結果、主の約束どおりイスラエルはエリコに勝利することができました。なぜ、彼らは従うことができたのでしょうか。それは、エジプトからここまで導いてくださった主に信頼していたからです。

まとめ

ヨシユアやイスラエルの民に勝利を与えられた主は、今、私たちが信じている同じ主です。主は、私たちのことをよく知っていて下さいます。そして、すでに勝利を与えてくださっています。主に信頼して歩みましょう。主は必ず困難を乗り越える力を与えて下さるのですから。

♪ 恐れないう（プレイズ&ワースhip 146）

聖書 ヨシユア6・1〜20 テーマ ヨシユアとエリコの町

序論

(高橋頼男)

ヨルダンを渡りカナンに進入したヨシユアとイスラエルの民の前に、エリコが立ち塞がっていました。カナンに侵入して約束の地を獲得していくためには、どうしてもまずエリコを攻略することが肝要でした。エリコは、古代からのオアシス都市であり、難攻不落の城壁を誇る町でした。出エジプト以来40年、荒野を彷徨^{さまよ}ってきた難民集団が、どうしてもエリコと戦い、攻略することができずしょうか。改めてエリコを眼前に仰ぎ見たヨシユアは、どう戦ったらよいのか途方にくれました。しかし、この戦いは人間の戦いではなく、神が戦われる戦いです。したがって、人間の 방법으로勝利するのではなく、神の方法で勝利するのです。エリコは、神ご自身と神の方法による勝利によって初めて勝ち取られるのです。

一、主を軍勢の将として迎える(5・13〜15)

エリコ攻略のために思案していたヨシユアの前に、いきなり抜き身の剣をもった一人の人が立ちました。ヨシユ

アは思わず「あなたはわれわれを助けるのですか。それともわれわれの敵を助けるのですか」と問いかけました。その人は「いや、わたしは主の軍勢の将として今きたのだ」と言いました。ヨシユアはそのお方の前で地にひれ伏して礼拝し、足のくつを脱ぎました。そのお方こそイスラエルの主であるお方でした。そこで主はヨシユアに驚くべきエリコの攻略方法をお示しになったのです。

主を軍勢の将としてお迎えし、ひれ伏して礼拝すること、み前に足から靴を脱ぎ、戦いの主権をこのお方に完全に明け渡すことが神の方法による勝利の第一歩です。

二、主の言葉を信じる(6・1〜2)

主は、これから私はあなたに味方して、奇跡を起こし、強大な町とエリコの王と大勇士を打ち負かそう、そして、町をあなたと民に与えようと言われたものではありません。わたしは、すでに「あなたの手にわたしている」と、戦いが勝利をもって完了したかのごとく宣言されたのです。何のしるしも兆候もなく、説明もその過程も語られず、ただそれだけのことを言われたのです。ヨシユアは「アーメン」と信じて受け入れました。それが信仰です。信仰とは、告げられたみ言葉を信じることですが、し

かしその信仰はたしかに「望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認すること」(ヘブル11・1)です。神の信仰は私たちへの説得や納得ではありません。人間の合意や可能性でもありません。それは、ただ神の言葉を信じることです。しかし、そこに神の方法による勝利の第二步があります。

三、主の言葉に従う(6・3～20)

さらに、神の言葉を信じるということはお言葉ですからお従いますと、そのごとく信じ従っていくことです(ルカ5・5)。しかし、主のお言葉に従うことは、ほんとうに難しいことでした。

主のご命令は、六日間エリコの町を一日に一回、回らなければならぬ。七人の祭司がラッパを吹き鳴らし、主の箱をかく者はそのあとに従わねばならない。七日目には七回、回らねばならない。そして、民が大声で呼ばわるとき、エリコの町の石垣は崩れ落ちる。その時、民は町に乗り込み、その町を占領することができる……というものでした。果たして、ただこれだけのことでこの巨大なエリコの町が崩れるのだろうか。まことに信じがたいことです。何もせず、ただ町の周りを沈黙してひたす

ら歩くというのです。愚かで、たわごとのように思えてくる神の言葉です。沈黙の中にただひたすら歩きながら、「こんなことで大丈夫なのか、こんなことをしていいのだろうか」と、ヨシユアや民にふと疑念が湧いてきたかもしれません。しかし、とにかくにも、ヨシユアと民は、この主の命令に従って、大真面目で主のお言葉を実行したのです。この戦いは「それは、戦闘態勢ではなく、宗教行事の行列だった。戦争自体が礼拝行為になっているのはエリコの戦い以外には見られない」(鍋谷堯爾)と指摘されるほどの異例の戦いでした。信じ従うということは、主のお言葉が分からなくても、まるで愚かのように思えても、ただ神のお言葉に信頼し、ひたすら聴き、そして従うことです。これこそ神の勝利の最終歩でした。その結果、ヨシユアと民は、驚くべき圧倒的な神の勝利を経験したのです。

結論

今日も、難しい問題や課題を抱えている私たちですが、主に明け渡し、み言葉にひたすら聴き、お言葉に徹底して従うことこそ、神の方法による勝利の道と心得ましょ。ここに人知を超えた神の力あるご支配があるのです。

研究資料

(宮澤清志)

テキスト

1 エリコ ヨルダン川西岸、死海の北約10キロメートルあまりの場所にあった町。オリエント世界最古の要塞都市の一つとされている。イスラエルの人々のゆえにエリコの住民は、イスラエル軍の侵攻の前に震えおのいていた(2・9、11、5・1等参照)。

2 5節まで、主がヨシユアに対して出されたエリコ陥落のための具体的な指示が語られる。本節はその指示の要約である。主 5・13〜15に登場する、主の軍勢の将と考えられる。見よ、わたしは…わたししている エリコに対する勝利は神の賜物であり、この勝利が神の意志によつて既にすでに達成されたものであることをあらわしている。特に、わたししている という言葉は完了形であり、そのことを端的に物語っている。実際の占領は、神の側の既成の事実がこの地上において展開され、遂行されるにすぎないのである(天的既決定の地的追決定)。

4 七人 七日目 七度 「七」は、古代イスラエルでは聖なる数であり、また「完全数」であるとも言われて

いる。特に、宗教的祭儀には七という数字は重要である(レビ4・6、8・11、16・14等)。雄羊の角のラッパ通常、戦争(歴代下13・13以下)と礼拝式(民数記10・1〜10、詩篇47・5)において用いられた。

これまでの節からもわかることは、エリコの城壁の崩落の出来事は、イスラエルの民の軍事的行為ではなく、宗教的行為であるということである。同時にこの行進は、信仰者の信仰の歩みの行進であるとも見ることができる。

8〜11 主の指示(2〜5)に従って下されたヨシユアの命令(6〜7)は、その民によつて遂行された。この個所の詳細は、すでに前の個所によつて確認されている。ここで再びその詳細を記す。

まず、武装した者(4・13、6・7、9) が存在していたことから、これらの一連の行進は宗教的行為であると同時にやはり軍事的な行進という要素も加わっている。それは、主の軍勢の将(5・15)の存在からも明らかである。しかし、本日の聖書個所全体の文脈から見れば、やはり第一義的にはこれら一連の行動は宗教的行為である。なお、この武装した者(ハルーツ)は、

戦闘の備えができている者、という意味を持ち、スポーツにおける前衛といった意味合いの言葉である。

次に、**雄羊の角のラッパ**(4、8、他)は、聖書では民に戦いに対する備えをするようにとの準備や、聖なる行進のために用いられている(民数記10・9他)。しかしここではこのような意味以外にも、主の臨在を示し、また主の解放を示す意味合いもあった。

そして、**町を巡(る)**(4、7、11、他)という言葉は詩篇48・12にも用いられており、シオン(エルサレム)を巡る巡礼者の巡礼の姿を示している。

しかし、この個所がその前後の個所と決定的に異なる点は、**あなたがたは呼ばわってはならない**というくだりである。イスラエルの民は、この戦いが主の戦いであることを徹底的に知る必要があった。主の戦いに人間のための声は不要である。

12～14 基本的には前節までの一日目の行動と同じ。

15～16 主がヨシユアに命じられた7日目の指令(4～5)が実行される時が来た。

17～19 **滅ぼ(す)**(聖絶する、滅ぼし尽くす) 旧約聖書、特に申命記とヨシユア記では重要な思想のひとつで

ある。イスラエルでは、戦争は宗教的行為である。それゆえ敵は^{〔ヘ〕}ヘーレム、主にささげられるべきものとして滅ぼし尽くさなければならぬものとされていた。7章に登場するアカンは、この滅ぼし尽くすべきものを惜しんで横領し、一族もろとも滅ぼし尽くされた。戦争が聖なる戦争であるため、戦争に加わる者も聖なる者とされた。カナンの町々を攻略する者は、そこに住む人々を聖絶しなければならぬ(申命記20・16～17)。なぜならば、彼らの偶像礼拝は不浄であり、それを除くことによって、主の聖さは保たれるからである。この点がおろそかにされるとイスラエルの民は偶像礼拝に惑わされ、主の怒りを招くことになる。イスラエルが聖なる民であり続けるためには、異教の偶像礼拝から切り離されていなければならないのである。そうでなければ、アカンのように、自らが滅ぼされるべき者とされることになるのである(18)。ただし、金、銀、青銅、鉄およびそれらで造った器は、聖別されたものであって、主の宮に携え入れなければならない(19)。

参考図書 リチャード・S・ヘス『ティンデル聖書注解ヨシユア記』(いのちのことば社) 他

聖書

士師7・1～8、16～22

タイトル

ギデオンの戦い

暗唱聖句

わたしは水をなめた三百人の者をもつて、あなたがたを救い、ミデアンびとを

あなたの手にわたそう。 士師7・7

目標

自分の力に頼るのではなく、全能の主により頼む者となる。

導入

(土屋開夫)

今月は、神様に用いられた旧約聖書の人物を見ていきます。先々週はモーセさん、先週はヨシユアさんでした。そして今日はギデオンさんの事です。

ところで皆さんに質問です。皆さんは「自分は強い」と思いますか、それとも「自分は弱い」と思いますか？ 先生は子どもの頃から、「ボクは弱いなあ。まるでアニメのドラえもんに出て来る『のび太くん』みたいだなあ。憶病だし、心配ばかりしてるし…」と思ってきました。大人になった今でも「弱いなあ…」と思います。

でも聖書を見てみると、不思議なことに神様は「自分は強い」と思っている人よりも「自分は弱い。自分なん

かダメだ」と思っている人をあえて選ばれることが多いようです。今日のギデオンさんもそんな人でしたよ。

憶病なギデオン

ヨシユアさんの時代からだいぶ時が経ちました。イスラエルの人たちが本当の神様に従っている時は、平和でした。けれども、神様に背いて偶像を拜んだりすると、神様は周りにいる民族を用いて、イスラエルの人々を攻撃したり、支配したりさせました。

この時も、ミデアン人がイスラエルを苦しめていて、農作物をことごとく奪っていくのです！ しかもミデアンの兵隊の数は、いながらの大群のように数え切れない程多かったのです！

そんな中、ギデオンさんもミデアン人を恐れて、見つからないように、酒ぶねに隠れていました。(酒ぶねというのはブドウ酒を作る所で、みんなのおうちのおフロ場ぐらいの大きさです。約2平方メートル。)

そんなギデオンさんのところに、主のみ使いが現れて「大勇士よ、主はあなたと共におられます」と言いました。「だ、だ、大勇士だって？ このボクが？ そんなわけな

いでしょう?」とギデオンさんは思ったでしょう。でもみ使いは、イスラエルを救うために、あなたを遣わす、と言うのです!

みんななら、そう言われたらどうしますか?「無理、無理、無理、絶対無理です!」と言うでしょう。そりゃそうです。誰も自分の力では「勇士」になてなれません。自分の力を越えたことは出来ません。

でも、聖書でいう「勇士」とは、自分の力で戦う人の事では無く、共にいてくださる神様を、そしてイエス様を信じる勇士、つまり「信仰の勇士」のことです!

「大勇士よ、主はあなたと共におられます。」(12)。

「わたしがあなたと共にいるから、ひとりを撃つようにミデアンびとを撃つことができるでしょう。」(16)。

たった、これだけで?

さて、イスラエルには3万2千人の兵士がいました。それでも敵のミデアン人の兵士の方がもっとも多いのです。ところが神様はギデオンに言われました、「あなたと共にいる民はあまりに多い」と。「恐れおののく者は帰れ」と言われ、兵士は1万人に減りました。神様

はその1万人を更に試され、結果、たった3百人の兵士だけが残りました。でもこの3百人は、「恐れに負けない心」を持ち、「常に戦う心を忘れない」、主の兵士にふさわしい人たちでした。

でもなぜ神様は、兵士をそんなに少なくされたのでしょうか?そして、なぜとても憶病なギデオンさんを隊長に選ばれたのでしょうか?それは、「勝利」は人の力によらず、人数の力によらず、主なる神様の力による、ということを示すためでした!(参照:ゼカリヤ4:6)結果、ギデオンさん達は、主の不思議な方法で見事、勝利したのです。(詳細、省略)

まとめ

あなたも、自分自身はどんなに弱くてもいいのです。共にいてくださる強いイエス様を信じる心があれば、あなたも「信仰の勇士」の一人になる事が出来るのです!

♪主われを愛す♪(こ35、新聖歌505)

聖書 士師7・1～8、16～22 テーマ ギデオンの戦い

序論

(宮澤清志)

ギデオンが指導者として整えられていく様子が描かれています。主は、人間的に見ればおよそ指導者としてはふさわしくないであろうギデオンをあえて選び、さらにギデオンをそのままにはせずに訓練し、指導者として整えてくださる方です。

一、神の選別

まず、主はギデオンに対して「あなたと一緒にいる民は多すぎる」と語られました。しかし、イスラエルの精鋭三万二千に対して、敵の数は10数万人でした(8・10参照)。人数だけなら、むしろ圧倒的に少ないはずです。人間的には、むしろもっと多くすることを求めるはずです。しかし、神は「多すぎる」と。聖書では、「王は軍勢の大きさでは救われぬ。勇者は力の大きさでは救い出されない」(詩篇33・16 新改訳2017)、「多くの人によっても、少しの人によっても、主がお救いになる

のを妨げるものは何もない」(サムエル上14・6)とあります。主は、人間的な、また相対的な基準をお用いになるお方ではなく、主ご自身の基準によってこの民を選別されました。

まず、「だれでも恐れおののく者は帰り、ギルアデ山から離れよ」(3・新改訳2017)と語られました。主の民であることの基準は「恐れの有無」ということです。主は、その歴史を通して、くりかえし「恐れてはならない」と語られました。律法にも「恐れて弱気になつていゝる者はいないか。その人は自分の家に帰るがよい。兄弟たちの心がその人の心のように萎えろといけないから」(申命記20・8)とあります。この選別の結果、三万二千人のイスラエルの民は一万になりました。

次に、主は「兵はまだ多すぎる。」(4)と語り、民が水を飲む方法によって、その民の兵士としての適格性をご覧になりました。ここでは「敵前意識」が問われています。この選別の結果、300人が選ばれたのですが、この300人は、いかに渴いていても常に敵前であることを忘れたなかった民であるということができます。主の戦いは、同時に悪魔との戦いでもあります。

この主の選別を通して、主の民は、敵の大軍を見ても恐れおののくことなく、また常に敵からの攻撃への備えをしている用心深さが必要であることがわかります。人数は関係ないのです。

なお、9節から15節までは、主の選別が確信へと変えられた個所ですが、主は再三再四、ギデオンをお取り扱いなさるお方です。「もしあなたが、下って行くことを恐れるなら」(10・新改訳2017)とあるように、主はギデオンのうちにある恐れを徹底的に取り扱い、彼に懇ろな配慮を与えて下さるお方なのです。

二、神の戦い

さて、こうしてえり分けられた300人をもって、ギデオンは主の戦いへと参戦していきます。しかし、この戦いにおいてギデオンが最初に行ったことは、礼拝であったことは見落としてはなりません(15)。前節までの夢の話とその解き明かしを通して主の勝利を確信し、感謝をささげ、御名をほめたたえたことは、ギデオンにとって必然だったのです。

まず、ギデオンは選ばれた300人を3つの隊に分け、ギ

デオンと共にいる100人に、その手に角笛と空のつぼを持たせ、そのつぼの中に燃えたいまつを入れるように命じます。そして他の2つの隊にも同じように命じ、真夜中の夜番の始まるころ(午後10時ころ)、ギデオンの合図に合わせて主の兵士300人が一斉に角笛を吹き鳴らし、同時に手に持ったつぼを打ち砕きながら「主のため、ギデオンの剣」と叫んだというのです。ミデヤン人たちは、つぼを打ち砕いた奇妙な音と、角笛の響き、そして彼らの叫び声と松明の明かりにびっくりし、大声をあげて逃げ、また同士討ちを始めたとあります。しかし、ここで注目したいことは、イスラエルの民自身が戦ってはいない、ということ。あくまでも、戦われたのは主であって、主が彼らを同士討ちするように仕向けたのです(22)。彼らはただギデオンがしたことと同じことをしたに過ぎないのです(17)。

結論

私たちは、見えるもの、人間的な何かにより頼みたくなるものです。しかし、全能なる神の御手にすべてをゆだね、神により頼む者になりたいと思います。

研究資料

(辻林和己)

士師7章は、第五番目の士師ギデオンに率いられたイスラエル軍とミデアンの大軍(士師8・10より十三万五千人の兵であったことがわかる)との戦いが描かれている。1〜18節は、戦いの備え、19〜25節は、実際の戦いの様子が記されている。

テキスト

1 エルバアル ヘブライ語で「バアル(土地の肥沃豊穡を司る異教の神)が争う」という意味。6・28〜32に記されているようにギデオンはバアルの祭壇を打ち壊し、アシラ像を切り倒した。ここでの「エルバアル」はバアルが自分の祭壇を壊したギデオンと「自ら争う」という意味(実際は何もする力はない。バアルをあざける皮肉な表現。)で用いられている。このようないきさつでギデオン自身がエルバアルと呼ばれるようになった。モレの丘 ここにミデアン軍は野営していた。

2 わたしは自身の手で自分を救ったのだ この後、主は三万二千人いたイスラエル軍の兵をわずかな人数にさ

れる。その理由がこの節に示されている。このまま戦ってイスラエル軍が勝利することになれば、彼らは、数の力、人の力でそれをなしたと自ら誇るに違いない。主は、彼らが誤って誇ることのないように、あえて人数を減らされる。

3 だれでも恐れおののく者は帰れ 申命記20・8の規定に従って、戦いを恐れるすべての者(二万二千人)が放免された。

5 すべてひざを折り、かがんで水を飲む者 「犬のように……水をなめる者」と共にこれらの者たちは、軍人として敵に対する用心が不足しているとみなされた。

6 手を口にあてて水をなめた者 この者たちは水を飲むときもひざを折らず、敵を警戒しつつ常に危機に備えていた。イスラエルの兵士は、最終的には三百人が残され、戦うことになった。

8 つぼとラツパを取り これらは、戦いのときに用いられることになる(19〜20)。

9 その夜 イスラエルの三百人の軍がミデアン人の陣営に夜襲をかけることになる。

9〜15節の出来事のあらまし

ギデオン自身にはまだ不安が残っていた。主は彼を部下のプラと共にミデアン軍の前哨地点に忍び込むように命じられた。ギデオンはそこで、敵兵の夢の話とその仲間がした夢の解き明かしを聞くことになる。それにより、彼はイスラエルの勝利を確信し、敵軍の中で主を礼拝した。

18 主のためだ、ギデオンのためだ ギデオンが三百人の兵に、このように言いなさいと命じたこの言葉は、掛け声であると同時に彼らが何のために戦うのかを言い表す言葉でもあった。彼らが戦うのは、偶像礼拝から真の神にイスラエルの民を立ち帰らせたギデオンのためであり、彼と共に、そして彼らと共におられる神のためである(士師6・12)。彼らは自分たちの弱さと無力さを知り、ギデオンと共にただ全能の主により頼んで戦った。

19 中更の初め 「中更」は夜を三つ分けた真ん中の間のこと。その「初め」は午後十時。

20 左の手にはたいまつ…右の手にはラッパ 本来、彼らの手に持つべき武器は「つるぎ」であるが、このときはたいまつとラッパが「主のためのつるぎ」であった。それらは、リーダーのギデオンとイスラエル軍に勝利を

もたらすつるぎであり、主の栄光を現すつるぎであった。
21 敵陣を取り囲んだ 突然、現れたたいまつを見、ラッパの音を聞いたミデアンの兵士たちは、自分たちが敵の大軍に取り囲まれていると思ったことであろう。

22 主は…同志打ちさせられた 実際にラッパを吹き、鬨の声を上げたのはイスラエルの兵士たちであったが、パニックになり、敵軍が互いに攻撃し合うようにさせられたのは主ご自身であったことを示している。

22 敵軍は…逃げ去った ミデアン軍は、モレの丘から南東方向、ヨルダン川西岸方面に敗走した。結果はイスラエル軍側のミデアンの大軍に対する圧勝であった。

6〜7章では、素晴らしい信仰を示したギデオンであったが、8章後半の晩年の姿は「俗人」に見える。生涯、主により頼んで歩み続けることの大切さも教えらる。

参考図書 A・E・カンダル「士師記」ティンデル聖書注解、鍋谷堯爾「士師記」『新聖書注解旧約2』(以上いのちのことは社)等

聖書

士師16・4〜6、15〜22

タイトル

ナジルびと、サムソン

暗唱聖句

わたしは生れた時から神にささげられた

ナジルびとだからです。

士師16・17

目標

罪から聖別されて、力強い信仰者生涯を送る。

導入

(和田牧子)

皆さん「士師」っていう言葉、聞いたことありますか？動物の獅子、ライオンさんのことではありませんよ。士師とはイスラエルの国のお仕事の一つで「さばきつかさ」のことです。今日の主人公サムソンは士師の一人でも、ものすごく力の強い人でした。皆さんの中に腕ずもうの強い人はいますか？でも、サムソンには負けてしまうかも!?

ナジルびと、サムソン

サムソンはナジルびとの士師でした。ナジルびとは、神様によってよく生きるように選ばれた人のことです。

生まれた時から神にささげられたサムソンは、御使い

に命じられ、一切どう酒を飲まず、髪の毛をそり落とすことをしませんでした。ですから、とっても長い髪の毛が主だったのです。その髪の毛は、神様がサムソンに大きな力を与えられたしるしでもありました。

この力のおかげでサムソンは、ロバのあごの骨をひとつ使って、なんとペリシテ人千人を倒したほどです。それから真夜中にむっくりと起き上がり、町の門のとびらと二本の柱を引っこ抜いて、高い山の上まで運んだほどでした。ものすごい力ですね!

ばらしちゃダメなのに…

あるとき、サムソンはデリラという女性に恋をしました。それを知ったペリシテ人たちは、何とかしてサムソンの弱みを知りたいと思っていたので、デリラに言いました。「サムソンに聞きなさい。どうすれば彼に勝てるんだい？彼をしばって、苦しめることができるんだい？教えてくれたら、私たちはそれぞれあなたに銀千枚ずつをあげましょう」。この時のペリシテ人は5人だったようです。銀千枚×5人とはだいたい250万円から300万円ぐらいでした。お金に目がくらんだデリラは、サムソンにたずねました。「どうか私に教えてください。

あなたの強い力はどこにあるの？」デリラはサムソンにしつこく聞きました。サムソンはうまくごまかして、三回までは本当のことを言いませんでした。しかしついに根負けして、デリラに秘密をばらしてしまったのです。

「私の頭には、かみそりをあてたことがないのです。私は母のお腹にいたときから神にささげられたナジルびとです。もし髪の毛をそりおとされたら、私の力は去ってしまい、弱くなって普通の人になってしまいうう」。

悔い改めたサムソン

さあ、たいへん！ デリラの知らせを受けたペリシテ人たちはサムソンをつかまえにやってきました。デリラはサムソンをぐつすり眠らせ、人をよんで髪の毛をそらせてしまったのです。いよいよペリシテ人が襲ってきたときサムソンは「なあに、今度もいつものようにたおしてやる！」と自信満々でした。サムソンは神様との約束をやぶったために、神様の力がはなれてしまったことを知らなかったのです。ペリシテ人はサムソンをつかまえ、その両目をえぐり出しました。こわいですね。サムソンはろうやの中でくさりにつながれ、白をひくこと

になってしまいました。

そのろうやの中でサムソンは、心から神様におわびしたことでしょう。せつかくすばらしい力を与えられていたのに、神様から心がはなれていました。きよく歩むよりも、デリラの誘惑に負けてしまいました。そしてサムソンの力の秘密を話してしまいました。

そんなサムソンに、神様はもう一度力を注いでくださいました！ 髪の毛がだんだんと伸びていったのです。ペリシテ人のお祭りに呼ばれたサムソンは、神殿の石の柱を引き寄せ、力をこめて身をかがめました。すると神殿はグラグラ、ドーン!!とくずれ落ち、その下じきでたくさんの敵がたおれ、サムソンもまた死んでいったのです。

結び

皆さんはサムソンのように強くないよ!と思うかもしれませんが、イエス様の十字架と復活によって救われた人は、どんなに弱くても、イエス様によって強いのです。皆さんが持っている信仰と力を、神様と人のお役に立てるよう、ささげていきましょう！

♪ 気持ちが暗くなったら♪ (イン78)

聖書 士師16・4〜6、15〜22 テーマ サムソン

序論

(石田高保)

反面教師とか他山の石という言葉がありますが、サムソンはさしずめクリスチャンにとつてそういう存在でしょう。彼の生きた時代、イスラエルはペリシテの侵略を受けましたが、それに対して無力なため、その支配を甘んじて受けていました。そこで神はペリシテに断固抵抗する指導者を起すことにされます。彼の生まれる前、両親に主の使が現れ、生まれる子はペリシテからイスラエルを救い出す者になると宣告しました(13・5)。やがて成長して、彼に主の霊が降り、並はずれた力でペリシテ人を圧迫するようになり、20年にわたってイスラエルのさばきびと・土師として活躍しました(31)。

一、力任せによる失敗

彼の前半生は、まさに怖いものなしでした。主の霊が臨み、並はずれた力を授かりました。彼はそれをペリシテ人を一人でも多く殺害することに用いました。

ある時からサムソンはデリラというペリシテの女に熱

を上げてその家に入り浸っていました。それを知ったペリシテの君主たちは高額の報酬を提示してデリラからサムソンの弱点を探り出そうとします。サムソンは三度も煙に巻こうとしましたが、せがまれるうちに根負けし、ついに本当のことをしゃべってしまいました。へもし髪をそり落されたなら、わたしの力は去って弱くなり、ほかの人のようになるでしょう。というのも彼はナジル人として生涯髪の毛をそらないという誓願を立てていたからです。そこでデリラは人を呼んでサムソンの髪の毛をそり落とさせたと、神の霊による怪力は去ってしまいます。情に流されてわが身に破滅を招きました。

主を受け入れた人は誰でも聖霊の賜物をいただいており、優劣はありませんが、神と人によりよく仕えるために用いられるべきものです。得意な奉仕の分野だからといって自分を喜ばせようとして、力任せに行うなら、周りの人との関係を損なったり、後味の悪いものになったりするかもしれません。自分の能力や知識に頼るのではなく、聖霊に満たされることを求めつつ、謙遜に奉仕したいものです。

二、悔い改めによる回復

ついにサムソンはペリシテの手に陥り、両眼をえぐられ、獄屋の中でうすを引かされる羽目になります。彼の生涯で初めて経験する挫折です。サムソンは人生のどん底で考えました。なぜここまで落ちぶれてしまったのか、自分の何がいけなかったのかと。本質的なことは力の源である髪の毛を切られたこと、突きつめれば神との関係をなおざりにしていたことに思い至ります。そこで彼は深く悔い改め、神との関係を回復したと思われまふ。やがて髪の毛も再び伸び始め、かつての千人力が全身にみなぎるのを感じました。反転攻勢のときが訪れたのです。折しもダゴンの祭りで大勢のペリシテ人の前へ見せ物に出されたサムソンは、彼らを倒す好機と見て祈ります。「ああ、主なる神よ、どうぞもう一度、わたしを強くして、わたしの二つの目の一つのためにでもペリシテびとにあだを報いさせてください」(28)。そして両手で石柱を引き寄せて倒し神殿は崩壊し、三千人のペリシテ人を道連れにして果てます。「サムソンが死ぬときに殺したものは、生きているときに殺したものよりも多かった」と、その士師としての功績がたたえられています(30)。

彼の生涯には神への不従順が目につきますが、まいた

ものを刈り取る中で不従順を悔い改め、神との交わりを回復しています。このようにどれほど行状が芳しくなくとも、ひとたび悔い改めるならば、神はただちに100パーセント赦し、何事もなかった者として見て下さいます。あまりにひどい罪を犯してしまったので、神に赦していただけないと思うことがあっても、十字架による完全な赦しを信じて悔い改めればだいじょうぶです。それとともに神が赦して下さった自分を赦すことも忘れないようにしたいものです。

彼はおおむね神に不従順な人生を送ったにもかかわらず、新約聖書では信仰の勇者としてたたえられています(ヘブル11・32)。新約の倫理観から見れば、彼の生き方はとうていほめられたものではありません。それでも彼はイスラエルを侵略者から救い始めた英雄であり、神に選ばれた器であることに違いありません。

結論

何度同じ過ちを犯したからといって神の選びは変わらず、神に見捨てられることもなく、赦しの道は常に用意されています。しかしそれに甘んじることなく、神とのコミュニケーションを大切にしてゆきましょう。

研究資料

(宮澤清志)

テキスト

4〜5 デリラ 「思わせぶりをする」という意味の名。ペリシテ人であった。しかし、この名の由来だけを見てデリラに対する偏見を抱くのは早計である。なぜなら今回のサムソンとデリラの物語の背後には、当時その地方に勢力を持っていたペリシテの君たちの策略があったからである(後述)。ペリシテびとの君たち ペリシテ人

には5人の領主がいた(サムエル上6・4)と考えられるから、ここでも5人いたのであろう。すると、デリラへの報酬としてのおの銀一〇〇枚とすると、全部で五五〇〇枚ということになる。この額を今日の貨幣価値に換算すると、注解者によって多少の幅はあるものの、おおよそ250〜300万円くらいの額とされている。かなりの高額である。説きすすめて 「言いくるめて」(新共同訳)。この言葉にペリシテの領主たちの策略がうかがえる。

15〜22 サムソンがその力の秘密を打ち明けた経緯が記されている。

15 あなたの心がわたしを離れている 直訳すると「あなたの心はわたしとともにならない」となる。これまでのデリラの言葉(10、13)とは明らかに異なる言葉。デリラの焦りと怒りが透けて見える。三度も 一度目(7〜9)、二度目(10〜12)、三度目(13〜14)。

16 毎日 どのくらいの日数が経過したかは明らかではないが、かなりの日数が経過したと考えられる。その間、毎日前節の殺し文句をもって責め立てられたサムソンは、死ぬほど悩んだ。

17 ここに人間の弱さを見ることができ。サムソンは既に同じ過ちをティムナの女の一件でもしていた(士師14・16〜18)。この時も、サムソンは思わずその秘密を打ち明けてしまったのである。前の過ちを繰り返さないように注意していても、同じ過ちを繰り返してしまったのである。ナジルびと 「聖別された者」という意味を持つ。イスラエル人の中で、特別な宗教儀式(誓願^{せいがん})を守って献身し、ヤハウエに対する信仰を表明した人々を指す。それは一時的献身の場合もあれば、生涯にわたる献身の場合もある。サムソンは後者である。具体的な守るべき律法は、民数記6章に記述されている。かみそりを当て

たことがありません ナジル人が守るべき律法の一つ。古代において「毛髪」は不思議な力の宿るところとされた。毛髪の成長力と関連があるのかも知れない。髪を失うことは、力の喪失を意味していた。しかし、サムソンの力の源が毛髪にあるのではないことはいうまでもない。また彼の肉体にあるのでもない。彼がその毛髪を剃ることを許したことは、彼がナジル人としての誓願を破り、神との関係を絶ったことになるのである。その結果、主はサムソンを離れた(20)。ほかの人 直訳は「人間(ヘアダム)のひとり」。

18 デリラは、サムソンが今度こそ真実を打ち明けたことを直感によって知ったのであろう。彼女はペリシテの領主たちに上ってくるようにと呼んだ。そのとき領主たちは銀をもつて上ってきた。すなわちデリラとペリシテの領主たちとの間で約束されていた銀一一〇〇枚のことであらう(5)。

19 彼を苦しめ始めた サムソンが寝ている間に両手を縛り、7房に分けてあった髪をことごとく切り落とした後に、侮辱し始めたのであろう。

20 彼は主が自分を去られたことを知らなかった 民数

記14・42以下、ヨシユア7・12(アカン)、サムエル上16・14、18・12、28・15(以上サウル)等、この言葉はしばしば登場するが、非常に厳しい言葉である。ここにおいても、サムソンの力の源がその毛髪にあるのではなく、臨在される主ご自身にあることが明示される。

21 両眼をえぐり サムソンを捕らえたペリシテ人たちは、即座に彼を殺すのではなく、まずなぶりものにして楽しむという意図がうかがえる。ガザ 地中海沿岸にある、ペリシテの5つの都市国家の一つ。うすをひいて 通常奴隷のする仕事であり、やはりサムソンをなぶりものにしようという意図がある。

22 その髪は毛はそり落された後、ふたたび伸び始めた この間の時間の経過がどれくらいであるか分らないが、この間は、サムソンにとっては悔い改めと神との交わりと回復の時として必要な時間であった。この後続くペリシテとの最終決戦(23・31)の背景には、この期間の主との交わりの回復が必須であった。

参考図書 鍋谷堯爾「新聖書注解 旧約2」(いのちのこ
とば社) 他

聖書

マタイ25・14〜30

タイトル

タラントを活かす

暗唱聖句

良い忠実な僕よ、よくやった。

マタイ25・21

目標

与えられた賜物を生かして、神に仕える者となる。

導入

(土屋開夫)

テレビのバラエティー番組などに出る人を「タレント」と言いますね。それは「才能ある人」という意味で、今日の聖書箇所にも出て来る「タレント」というギリシャ語からきている言葉です。それは当時のお金の単位の一つで、1タラントは今の日本のお金でいうと、およそ6千万円にもなります。という事は、2タラントは1億2千万円、5タラントなら3億円!

でも今日の聖書のお話は、お金の事を言っているわけではありません。父なる神様が、みんなに素晴らしい才能をたっぷり与えておられるという事なのです! でも大事な事は、そのタラントを「使う」という事なんです。

それぞれタラントを預かった僕

ところで「再臨」って何だか覚えていますか? そう、この世の終わりの時代、イエス様が天から再び来られて、イエス様を信じて待っていた人たちを天国に迎えて下さる事です。今日の譬え話もその時の事です。

あるご主人が旅に出る時、3人の僕たちにそれぞれ5タラント、2タラント、1タラントの財産を預けました。それはその財産を「ただ大事に持っている」という事ではなく、「それをよく使いなさい。増やしなさい」というご主人の願いでした。

「そんなにたくさんさんの財産を預けられても困る!」とみんなは思うかも知れませんが。あるいは「お金の額に差があつてズルイ!」と思うかも知れません。でも「それぞれの能力に応じて」と書いてあります(15)。ペテランの僕もいたでしょうし、新米の僕もいたでしょう。ご主人は、一人一人の事をよく分かつていて、無理なく使いこなせる分のタラントを、信頼して預けたのです。

そして5タラント預かった僕も、2タラント預かった僕も、その財産をよく活かし、よく働いて倍に増やしました。ところが1タラント預かった僕は、そのタラント

を全く使わず、地面の中に隠しておきました。

ご主人が長い旅から帰って来た時、僕たちの会計報告を聞き、正確に計算しました。そして、5タラント、2タラントを預けた僕に「良い忠実な僕よ、よくやった」と褒めて下さいました。それぞれ自分の能力とタラントに応じて、ご主人のために忠実に働いたからです。

ところが1タラントを預かった僕は、タラントを全く使わなかった言い訳をしました、「恐かったのです」と。この僕は「悪い怠け者の僕だ」と叱られ、お屋敷の外に追い出されてしまいました。

キミのタラントは何だろっ?

この譬え話の意味は何でしょう? ご主人はイエス様の事です。僕たちは私たちです。ご主人が帰ってくる事は「再臨」の事です。私たちはイエス様が地上に帰って来られる「再臨」を、何もしないでただ待つのではありません。イエス様から一人一人に預けられたタラントをご主人であるイエス様のためにフル活用するのです!

そう言う「ボクにはなんの力も才能もない…」っていう子がいるかも知れません。でもイエス様からタラン

トを与えられてない人は、一人もいません。まだその素晴らしいタラントに気づいていないだけです。

①ここでみんなに二つ質問します。考えてみて下さい。①「あなたの好きな事は何ですか?」どんな小さなことでも、好きな事はタラントにつながります。

②「あなたはイエス様のために何ができると思いますか?」今日の個所のすぐ後でイエス様は言われました、「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」(マタイ二五・40)。だから、誰かのために何か良いことをするのは、イエス様にする事と同じなのです。

まとめ

お友達にイエス様を紹介する? 誰かのためにお祈りする? おばあちゃんのお見舞いに行く? イエス様から「よくやった! ゲッジョブ!」って褒めてもらえるように、失敗を恐れず、良い事を実行してみましょう!

♪主は僕らを用いてくださる♪ (PW59)

聖書 マタイ25・14～30 テーマ タラントを活かす

序論

(小泉 創)

世の終わりについて、イエス様が弟子たちに教えられている場面です。主人が旅に出るときに、3人のしもべたち（いわゆる奴隷というより、責任と自由があたえられた従業員のような存在）に財産を任せます。

一、しもべたちに任された財産

3人のしもべたちに任された額は、それぞれ異なっていました。ひとりには5タラント、もうひとりには2タラント、最後のしもべには1タラントが任されました。なぜ主人は、それぞれのしもべに異なった財産を任されたのでしょうか。その理由は聖書に書いてあります。〈それぞれの能力に応じて〉です。みんな能力が異なっていたので、主人はそれぞれの能力に見合った財産を預けられたのです。

私たちは他の人たちと比べることがいかに多いことでしょうか。他の人よりも多いと喜んでみても、少ないとね

たんでみても、何も良いものは生まれません。すべての人が違うのですから、任されているものも当然違います。能力が違うのに同じ責任が与えられるならその方が不公平です。任されているものが違うということは、実は主人が公平な方であることの証拠です。神様は私たち一人一人にふさわしいことをお任せくださっています。

二、一緒に喜んでくれ

しもべたちのところに主人が帰ってきました。決算の時です。5タラント渡された者が商売でもうけた5タラントを差し出すと主人が言いました。〈良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう〉と。しかし5タラントはわずかなものではありません。おおよそ三万日、すなわち80年分の給料に相当する金額です。5タラントがわずかであるなら、さらに多くのものとはいいたいどれほどのものでしょうか。

2タラントのものにも主人は同じ言葉をかけます。〈良い忠実な僕よ、よくやった〉と。主人は能力に応じて与えられたものに忠実になしたことを評価しておられま

す。〈主人と一緒に喜んでくれ〉としもべに對してまでも同労者のように声をかけています。神様も私たちの働きを正しく評価し、一緒に喜んでくださるお方です。

三、主人はどのような者か

問題は1タラントを任されたしもべです。彼は地面に埋めておいた1タラント（16年分の給料）を掘り出してきてこういいます。〈ご主人様、わたしはあなたが：酷な人であることを承知していました〉。このしもべにとって主人は、自分の持っている物をむしりとっていくような無慈悲な人に思えるということです。「自分には1タラントしか任されていないのに、きつと何倍もの成果を求められる。失敗したらどんな目にあわされるかわからない。それならむしろ何もしない方がよい。主人が厳しい方だから、自分は力を發揮する余地がないのだ：」と。しかし、この主人はそれぞれのタラントに応じた働きを喜んでくださるのですから、1タラントのしもべも1タラントの働きを忠実にすればそれでよかったのです。

私たちも、あまりにも多くのものを要求されているよ

うに思つてストレスを抱えることがないでしょうか。自分自身にも他の人にも厳しくなりすぎて、喜ぶこと、満足することを忘れてしまうことがないでしょうか。

この1タラントのしもべを反面教師としましょう。

- ・与えられている能力を、生かさずに地に埋めたりしないで、神様のため、人のために積極的に活用する。
- ・人と比べないで、自分にできることを精一杯取り組む。

・主なる神様を、私に能力と使命を与えてくださり、一緒に喜んでくださる方として信頼する。

結論

このたとえは、イエス様の再臨を指し示しています。それは私たちの人生の決算のときでもあります。イエス様から、よい忠実なしもべよ、一緒に喜んでくれと声をかけられたなら、どんなに幸いでしょうか。

私たちに与えられている能力を、神様のために、そして人のために生かしましょう。失敗をしないようにではなく、主がお帰りになる喜びの日を思いつつ、生き生きと働く忠実なものとしていただきましょう。

研究資料

(小平徳行)

イエスはここで、再臨を待ち望む御国の民がどのような歩みをすべきかを教えられた。それは、ひとりひとりと与えられた賜物を活用する生き方である。ここに忠実な生き方が問われている。

テキスト

14 ある人 御国の王であるイエスを指す。その僕ども「自分の奴隷たち」の意で、御国の民を指している。奴隷というと全く自由のない、人格を完全に無視された存在を想起しがちだが、ここに出てくる僕はかなりの自由と裁量権が与えられている。**預ける** 「引き渡す」の意。裁量権の一切を任せたということである。僕に対する主人の信頼と期待とを感じさせる。**旅に出る** イエスが地上の使命を終えて、天の御座に着かれること。19節の「帰ってきて」は再臨を指す。

15 それぞれの能力に応じて 主人は僕たち一人一人をよく知っていた。**ある者には五タラント、ある者には二タラント、ある者には一タラントを与えて** 御国の民は皆違った賜物を受けている。それは自分のためではなく

く神の御国のために働くことを期待されて預けられたものである。**タラント** もともと重さの単位であったが、貨幣の単位に変わっていった。一般に一タラントは六千デナリとされ、一デナリは労働者一日分の賃金とされている。すると一タラントは六千日分、つまり16年分ほどの給料である。こうしてみると一タラントといえども極めて高額であった。

20〜23 忠実な(ギ)ピストス 「信用できる」の意。**わずかなものに忠実であつたから** 五タラントもつけた者にも、二タラントもつけた者にも同様の評価をしている。主人は僕の忠実さに目をとめている。五タラント、二タラントは、僕の立場からすれば非常に高額であるが、主人からすれば「わずかなもの」であった。**多くのものを管理させよう** 預かったものが「わずかなもの」であるならば、「多くのもの」とは想像しがたい莫大なものである。キリストと共に天の御国を支配する特権の大きさをお知らせ。**主人と一緒に喜んでくれ** 直訳「あなたの主人の喜びに入れ」。忠実な僕にとってキリストとは「あなたの主人」ということのできる特別な関係にあるゆえ、この喜びは、業績をもたらしたことの一時的な喜びでな

く、主人との永続的な交わりのもたらす喜びである。

24 25 一タラントを預かった僕がそれを活用しようとしなかったことの弁解がここになされている。わたしはあなたが、まかない所から刈り：ここにこの僕の主人観が表されている。それは無理難題を押し付けて、理不尽な要求をする主人というものであった。キリスト者の歩みにおいて、神観は大きく影響する。恐ろしさのあまり この僕が一タラントを地の中に隠したのは、失敗をするならひどい仕打ちを受けるに違いないと考え、何もしない方が無難だとの判断による。預け主の期待よりも、自分を守ることを優先した。この僕に主人の愛も信頼も通じなかった。彼の内にあるのは恐怖と不信だけである。彼は一タラントを感謝せず、迷惑な重荷であると受けとめ、預け主の意思を踏みにじった。

26 27 怠情な(ギ)オクネロス この語源は[ギ]オクネオー「躊躇する」で、判断や決断ができないために行動することができない優柔不断な姿を指している。銀行に預けておくべきであった ローマ帝国の支配下の地域では銀行はかなり普及しており、利子も結構高かったという。主人が帰るまでの期間は長かったゆえ、相当の利息

がついたはずである。それだけにこの僕の怠けぶりは徹底していた。

29 おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう これは当時よく知られていた格言で、イエスは他でも語っている(13・12、ルカ19・26他)。これは社会的、経済的原則であると共に、霊的世界にも当てはまる。与えられているものを用いるなら、それはますます増し加えられ、用いないなら、あるものまで失われてしまう。真に価値あるものは、用いることによってのみ所有し続けることができる。神はキリスト者が、それぞれに託されたものに忠実に生きingことを求めておられる。

30 泣き叫んだり、齒がみをしたりするであろう 不敬虔な人の究極の運命を示すユダヤ教の伝統的な表現(8・12、22・13等)。

参考図書 中澤啓介『マタイの福音書註解』、増田誉雄『マタイの福音書』、『新聖書註解・新約1』、(以上、いのちのことば社)、織田昭『マタイによる福音書』(松本工房)、他。

聖書

マタイ25・31～46

タイトル
暗唱聖句最も小さい者のために
わたしの兄弟であるこれらの最も小さい
者のひとりにしたのは、すなわち、わた
しにしたのである。

マタイ25・40

目標

助けを必要とする人々を心に留め、必要
な助けをする者となる。

イエス様が再び来られる時

(櫻井めぐみ)

イエス様は、いつか再びこの地上に戻って来られます。それを難しい言葉で「再臨」といいます。じゃあ今は、イエス様はどこにおられるのでしょうか。天におられます。同時に、私たちと一緒にいてくださいます。でも、目には見えません。見えないけれどもともにいてくださるのです。今は私たちには見えないけれど、イエス様が誰の目にもはつきりとわかるように来られる。それが「再臨」なのです。でもその時がいつなのかは、人間の誰にもわかりません。そして聖書にはイエス様が再び来られた時にどういことが起こるのか書かれています。その時すべての人はイエス様の前に集められ、二つのグ

ループに分けられます。羊とやぎのグループです。ここで羊とたとえられているのは「父に祝福された人たち」。この人たちは天の御国を受け継ぎます。しかし、やぎとして分けられた人、「のろわれた者」は「悪魔とその使たちとのために用意されている永遠の火に」入らなければなりません。

誰が天国に入るのか？

祝福された者として天国に入るか、それとものろわれた者として永遠の火に入るか。みんなは誰も地獄に入りたいとは思わないでしょう。祝福された者になりたいと思います。でも「父に祝福された者」って一体どういう人かというと、その人たちはイエス様がお腹をすかせていた時に食べ物や飲み物をあげたり、病気の時にお見舞いに行ったり、なんとイエス様が牢屋にいた時にも会いに行ってくれた、と言います。でも、その人たちには良いことをしたという自覚がなかったんです。主よ、私がいつそんなことをしたでしょうか。それに対してイエス様は言われました。「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」「これらの最も小さい者」とは、弱い人、

困っている人、助けを必要としている人のことです。あるいは、みんなの学校やクラスに、他の人たちから避けられているような人がいるでしょうか。イエス様はそういう人たちのことをも指しておられるのです。しかも、びつくりするようなことですが、みんなが弱い人にしてあげたことはイエス様にしたことと同じなのだと思います。逆に、その人にしてあげなかったことも、イエス様にしてあげなかったのと同じなんです。自分には手助けをしてあげられるのに見えぬふりをするならば、それはイエス様にしてあげなかったことと同じだよ。イエス様はそう言われているのです。イエス様はその弱い人のことも愛しているからです。

それでは、考えてみましょう。私たちは一体どうしたら天国に入れるのでしょうか。人に親切にすることですか。弱い人を助けてあげた人が天国に入れるのでしょうか。いいえ違います。親切にすることは大事ですが、それをしたからといって天国に入れるわけではありません。それなら結局、誰が天国に入れるのでしょうか？

イエス様がいなくては

それは、イエス様を救い主として信じ、心に受け入れ

た人です。その人はイエス様が心の内に住んでいますから、当然のこととして、人を助けてあげようとしています。自分はいかにかわいそうな人に良い事をしてあげた、なんて思いません。上から目線になることなく助ける人になるには、イエス様に来ていただくなくてはならないのです。私たちはいくら人には親切にしようと言われても、たとえばクラスで仲間外れにされている人がいたとします。でも自分がその人と仲良くなるってかなり勇気がいることです。それはなぜかというと、私たちが罪人だからです。だからいじめは当然起こりうるものだし、いじめられている人がいてもなかなか助けてあげられない。それがもともと私たちの姿です。でもイエス様はそんな私たちの罪のために十字架にかかってくださいました。それを信じるならば私たちは天国に行けるだけでなく、イエス様が心のうちに住んでくださいます。私たちは自分の力ではなくイエス様によって人を助け、愛の行いをするようになるのです。まず、イエス様が先です。イエス様を信じて、弱い人や困っている人を助ける人になれるよう、イエス様に心の内に来ていただきましょう。

♪まもなくかなたの♪（新聖歌475、イン107他）

聖書 マタイ25・31〜46 テーマ 最も小さい者のために

序論

(小泉 創)

社会をゆるがす大きな出来事が起きると、世の終わりについて強調し、人々の心をかき乱すようなことが広まります。しかしイエスが弟子たちに世の終わりの時にについて教えられた中で、その日その時はイエスも知らず、父なる神だけがご存知なのだとお語りになりました。その日がいづなのかということに関心をもつのではなく、思いがけなく訪れるその日のための備えが必要なのです。

一、裁きの時

終わりの時とは、人の子つまりキリストが王として、再びおいでになる再臨のときです。主は栄光の座につかれて、すべての国民を集めて、羊とやぎを分けるように右と左に分けられるということです。それは使徒信条で「生ける者と死にたる者とを審きたまわん」と告白している、さばきのときです。とても厳かなときです。問わ

れるのは、社会的な地位でも、なしとげた立派な業績でもありません。私たちひとりひとりが、主の御前でどのように生きてきたかが問われるのです。

二、祝福された人々

主は右側に分けられた人々に、わたしの父に祝福された人たちよ、と呼びかけられました。そして御許によび寄せて、世の初めから用意されている御国を受けつぎなさいと言われます。あなたがたはわたしに対して食べ物、飲み物を差し出し、宿を貸し、着せ、見舞い、獄まで訪ねてくれたから、と言われます。しかし言われた人々には覚えがありません。いつわたしたちがあなたに、食物をめぐみ、飲ませ、宿を貸し、着せ、参りましたか、と尋ねます。主はおっしゃいます。「これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」。彼らが心をさいて、愛のわざをしたのは、イエスに対してではなく、そばにいる小さい者にでした。心が動かされて愛のわざをしたにすぎず、何の見返りも求めていませんでした。それが終わりの時に、持ち出されると考えていませんでした。ただ彼らは主の愛を受

けた者として、愛のわざをしたに過ぎませんでした。しかし小さな者に目をとめておられる主イエスは、それはわたしに對してしたのと同じことだと受け止め、喜んでくださるのです。

三、のろわれた者ども

その一方で、左に分けられた人々は、のろわれた者どもよと呼ばれます。そして神の祝福を離れて、悪魔との使たちとのために用意されている永遠の火にはいつてしまえと命じられるのです。それは彼らが、主に對して、食べさせず、飲ませず、宿を貸さず、着せず、尋ねることをしなかつたからだと告げられます。言われた人々は心外そうに言います。いつあなたを見て、お世話をしませんでしたか。お会いしていたなら、必ずそうしたでしょう、私たちはあなたとお会いしていません、と。確かに彼らは主を見ることはなかつたでしょうが、彼らのすぐそばにいた小さい者のことも見ていなかったのです。たくさんのお助けを必要とする彼らのことで心を動かすこともしませんでした。それは主の愛を受けた者の生き方としてはふさわしいものではありませんでした。主

はおつしやいます。「これらのも最も小さい者のひとりにしなかつたのは、すなわち、わたしにしなかつたのである。」

これはあまりにも厳しいことばでしょうか。いいえ、私たちは少なくとも、主がそのようになさるということをおあらかじめ聞きました。ですから、私たちはこのことを心にとめて、これから再臨の時を目指して生きていくことができるのです。あなたは祝福された者と呼ばれるにふさわしい生き方を選んでいくようにと主は語り掛けておられます。

結論

世の終わりに對する備えは、シエルターを造ることで、世捨て人になることでもありません。地に足をつけ、私たちの周りにいる、神の愛と慰めを必要としている人々のところに出かけていくことです。主にさせていただくように、食料や水を差しだし、床を整え、服を渡し、慰めと罪のゆるしと正義の言葉を伝えるのです。そのために必要な力を主がお与えくださいますように。目をあげ、すべての人と共に、主のおいでを待ち望みましょう。

研究資料

(中島啓二)

人の子が栄光に満ちて来臨されるとき、全ての人は、イエスの弟子たちと、彼らの伝えた福音をどのように扱ったかに基づいてさばかれる。福音の伝え手であり、また実際にその福音に生きるクリスチャンたちを親切に扱うことは、イエスをどのように扱うことなのである。ここにイエスと弟子たちとの目を見張る固い絆が見出される。弟子たちもまた、当然全ての人に愛のわざを行うようにと召されているのであるが、この愛の行いの対象は、キリストにある兄弟姉妹から始まって行かねばならない(ガラテヤ6・10)。ともすれば、信仰義認と矛盾する行為義認のように受け取られかねないが、決してそうではない。パウロ書簡においてその問題が扱われるのは、異邦人が教会に加わる条件としての割礼の要／不要という文脈である。それに対してここで問題となっているのは、第一義的には、既に教会の中にいる者たちが再臨を待つ間、互いに為すべき愛の行動であり、それは義認を勝ち取るための「律法による行い」ではなく、キリストへの愛と忠誠が外へとあふれ出たものである。

テキスト

31〜33 人の子が…栄光の座につくであろう 栄光の座は「王」(34)の座であろう。彼はさばき主として、最後の審判を主導する(ただし34節では、父の宣告を伝達する役割であることが示唆されている)。すべての国民をその前に集めて クリスチャンだけでなく、全ての人が判決を受けるために招集される(ローマ14・10他参照)。「すべての国民」(ギリシア語「パンタ・タ・エスネー」)は、大宣教命令における宣教の対象であり(28・19)、その命令の遂行は終末到来の条件とされている(24・14)。羊飼が羊とやぎとを分けるように 当時、羊とやぎを一緒に飼うことは一般的であり、季節によっては夜間、寒さに強い羊と、弱いやぎとを分ける必要があった。

34〜36 さあ [ギリシア語]デューテ(来なさい)の意識。41節で正しくない者たちに告げられる[ギリシア語]ポリュエスセ(去りなさい)と極めて対照的。御国を受けつぎなさい 彼らは、主を信じたときに既に前味として味わい始めていた神の国の恵みを、ついに完全な形で受ける。食べさせ：飲ませ：宿を貸し：着せ：見舞い：尋ねて 人間の様々な必要を代表するものとして挙げられているのだらう。

37〜40 正しい者たち： 彼らがイエスに対して愛のわ

ざを行った記憶がないことは、それらの行為が、救われるための条件を満たすために為されたのではなく、正しい信仰によって自然と結ばれた実であったことを示している。あなたがたによく言うておく イエスが非常に重要なことを告げるときによく用いる表現。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとり これが誰を指すのかについて諸説あるが、普遍的に「全ての人」を指すという意見と、「クリスチャン」を指すという意見とに大別される。マタイ福音書では、イエスが「わたしの兄弟たち」と呼ぶのは、一貫して弟子たちのことであることから、第一義的には、クリスチャン共同体の中にある兄弟姉妹を指すと考えるのが自然であろう。もちろん愛のわざは、最も身近なところから始まり、波紋のように外側へと広がっていくものであることは言うまでもない。

すなわち、わたしにしたのである キリストは、ご自身にある弟子たちをご自身と同一視なさるほど、両者の間に驚くべき深い絆を見ておられる。

41〜46 わたしを離れて 先述のように[ギ]ポリュエスセ(去りなさい)という命令。7・23では「預言し…悪霊を

追い出し…力あるわざを行った」と主張する者たちに対し、「不法を働く者どもよ、行つてしまえ」と厳しい言葉が投げかけられている。最後に問われるのは「愛なき」力あるわざ(Ⅰコリント13・2参照)ではなく、主の弟子たちに対する日常の愛のわざなのである。主よ「主よ、主よ」と言う者が、みな天国にはいるのではなく(7・21)を思い起こさせる。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは： 40節と比べて「わたしの兄弟である」が欠けているが、単なる表現上の省略と捉えるべきである。キリストの弟子たちに対して愛の行いをしなかったと言うことは、広義には彼らの伝える福音に耳を傾けなかったということも含まれるであろう。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るのである。形容詞[ギ]アイオーニオン(永遠の)が両方に用いられているが、その焦点は、単なる時間の長さではなく、両者の違いの決定性を示すことに置かれていると言える。

参考図書 注解書 D. H. Hagner (Word), D. Hill (New Century Bible), その他 The IVP Bible Background Commentary: NT

聖書

マタイ27・11～26

タイトル

真理にしたがって生きる

暗唱聖句

ピラトはバラバをゆるしてやり、イエスを
をむち打ったのち、十字架につけるため
に引きわたした。 マタイ27・26

目標

この世の力に屈することなく、真理に
したがって生きる者となる。

ピラトは良い人が悪い人か

(櫻井めぐみ)

ピラトはイエス様を十字架につけたことで、歴史に名を残しました。ピラトは実在の人物で、ローマ帝国からユダヤに派遣された総督です。歴史の本には、ピラトはイエス様と会う以前から、ユダヤ人から大きな反感を買っていたことが書いてあります。しかも、自分の親分であるローマ皇帝からもあまり良く思われていませんでした。だから彼は政治的に、危ういところに立っていたのです。ところで、みんなはピラトをどういう人だと思えますか？ 良い人？ 悪い人？ ピラトは良い人だと思った人はいいますか？ なぜそう思いましたか？ イエス様が何も悪いことはしていないと知っていたから。そ

して本当は助けたいと思っていたから。そうですね。ピラトは言っています。「あの人は、いったい、どんな悪事をしたのか」。ピラトは、イエス様は何も罪を犯していない人だから、無罪放免にしたいと思いました。だから、ちよつと考えただけならピラトは良さそうな人にも見えます。でも逆に、ピラトは悪い人だった人。なぜそう思いましたか？ そう、イエス様を十字架につけてしまったからです。イエス様が正しい人であると知りながら、十字架刑にする判決を下しました。これは悪いことです。だからピラトは悪い人だと言えます。でも彼は、良い人の面も持っていました。極悪人というよりは、良い部分も悪い部分もあるふつうの人です。ピラトにも良心がありました。イエス様が正しい人だと知っていたので、できることなら死刑にはしたくないと思っていました。それにもかかわらず彼は、良心に背いてイエス様を十字架につけてしまいました。それは、大勢の人たちがバラバを釈放して、イエス様の方は「十字架につけろ」と激しく叫んだからです。ピラトはそれに負けちゃったんです。自分でこれが正しいと分かっている、その正しい行いを選ばず、群衆の勢いに流されて悪い方を選び

ました。しかもそれを、群衆のせいになりました。でも実は私たちも、このピラトと同じなんです。

私たちを取り巻く同調圧力

みんなは「同調圧力」という言葉を聞いたことがありますか。同調圧力とは、自分はそうは思っていないんだけれど大勢の人の意見に合わせなきゃいけないとか、みんなと同じようにするのがいいことなんだという、雰囲気みたいなものです。でも、みんながYESと言ったからといって、必ずしもそれが正しいとは限らないのです。もちろん、みんなは学校など集団の中で生活していますから、そこで決められたルールを守るのは当然のことです（そのルールが明らかに悪いことを言っているのではない限りは、ですが）。ただ、自分ではこれが良いと思っても、集団の圧力に負けて悪い行動をとってしまうことが私たちにはあります。悲しいことですが、それは自分の弱さのためであり、それもまた罪の性質なのです。ピラトは確かに悪いことをしました。でも、もし自分が彼の立場だったらどうでしょう。ピラトは群衆を恐れ、皇帝を恐れていました。自分がこの場をきちんと治められなければ総督の立場を失うかもしれないのです。下手

をすれば自分が死刑になることだってあり得るでしょう。自分が死ぬか。それともキリストが死ぬか。どちらかを選ばなければなりません。それならば自分を守るために、罪のない人をも殺すだろう。そう思うんじゃないでしょうか。私たちもピラトと同じなのです。

私が十字架につけた

イエス様は、神の御子であり何の罪もないお方なのに十字架にかけられて死にました。それは私たちの罪のため。私たちに代わって罰を受けてくださったのです。それは約2千年もまえのことですが、イエス様を十字架につけたのはこの「私」なんです。私たちは正しいとわかっていても、周りの空気に流されてなかなかそれができないような、弱い罪人です。でもその正しいことができない私のために、イエス様は十字架にかかってくださったのです。そのことを信じ、イエス様を心にお迎えしましょう。自分は弱くて情けない罪人だけれど、イエス様がいてくださることによって、正しいことを行うことができるのです。イエス様によって、正しい時に正しいことをする力と、勇気と知恵と、愛が与えられるのです。

♪両手いっぱい愛（新聖歌483、ホ146他）

聖書 マタイ27・11～26 テーマ 真理にしたがって生きる

序論

(小泉 創)

現代のように情報があふれている中では、何が正しいことか、偽りなのかを見分けることは容易ではありません。情報操作をする人もいれば、私たちも誤った情報に振り回されてしまうこともあります。

二千年前の過越の祭りの前、イエスがかけられた裁判は、真実を求めることから程遠い、形ばかりのものでした。そこにいた人々の姿に目をとめましょう。

一、翻弄されるピラト

イエスを裁く者とされたのは、ユダヤ総督であったポンテオ・ピラトです。辺境の地ユダヤの治安を守ることがピラトに与えられた使命でした。

ピラトはイエスに「あなたがユダヤ人の王であるか」と尋ねました。この人物がユダヤの民を政治的に扇動し、ローマによる統治を脅かす存在だとすれば、早く対処しなければなりません。イエスは「そのとおりである」

とお答えになりましたが、ローマの圧制を糾弾すること
もせず、自分に不利な証言がなされても弁護の言葉を発
するわけでもないのです。ピラトは不思議に思いました。
イエスを取り調べ、その様子を見の中でイエスの無罪を
確信しましたし、妻から夢の話をきいたピラトは、イエ
スを助けて、早くこの件から手を引きたいと思うようにな
りました。その一方でイエスへの敵意にとらえられた
人々が暴動をおこし自分のキャリアに傷がつくことも恐
れていました。ピラトは結局、自分の判断を手放して、
イエスを十字架につけることを認めざるを得ませんでした。
真理、正義を求めることをせず、自分の良心に従う
こともできず、人々の顔色をうかがって保身に走ったの
です。手を洗ってみせて自分には責任がないと告げたと
しても、彼のしたことはずっと語り継がれることになり
ました。自分にはすべてを決める権威があると思ってい
たのに、辺境の地で押し流される小さな自分ではない
ことをピラトはどう思ったでしょうか。

二、祭司長、長老たち

ピラトが見てとったように群衆を煽動する祭司長、長

老たちの内にあるのは、イエスに対するねたみでした。本来は、イエスは神の民である彼らのために来られたのです。しかし彼らの心は神から離れていました。罪に捕らえられ、神を求めることも、神に従うこともやめていました。自分たちの立場がおびやかされるように思ったとき、そこで神のお取り扱いを受けるべきだったのです。彼らは自分たちの中にあるねたみや、神に従えない自分たちの姿に気づくべきでしたが、霊的に鈍感になっていました。

私たちも、自分の考えや今までのやり方にこだわるあまり、神のみこころから離れてしまうことがあるかもしれません。知らず知らずの内に、生きておられる神に従うことよりも、自分の信じたいように、好みにあうようにしてはいないでしょうか。イエスを押しのけて、自分が心の王座に座り込んでいないでしょうか。

三、イエスの道

ピラトが責任を放棄し、祭司長、長老たちが神に従わず自分たちの腹につかえ、群衆も集団で道を踏み外していく中、イエスだけはまっすぐにご自分の行くべき道を

歩まれました。それは父なる神が与えられた苦い杯を飲み干す苦難の道であり、すべての人の罪のためにあがないの供え物となる十字架の道でした。口をひらかず、黙々と歩むべき道のりを進んで行かれるイエスの姿の中には、神への信頼があらわれています。罪なきお方が、すべての人を愛し、その罪のためにご自身を捧げられることによって、罪のゆるしの道がひらかれるのです。その象徴として、バラバは死刑を免れて釈放されました。

結論

イエスの血の責任は自分にはないとピラトは言い、民衆はその責任は自分たちとその子孫にかかってもかまわない、と言いました。どちらにしても無責任きまりな言葉です。神の子の命の責任を、誰も負うことはできません。そのような何をしているかわからないすべての人の罪を一身に背負って、イエスは十字架への道を歩んでくださいました。人の罪が支配する再暗黒のやみの中でも、神の救いのみわざは進んでいくのです。

研究資料

(中島啓一)

テキスト

11 総督 ピラトは紀元26年頃、36年ローマからユダヤ

地方統治のために派遣されていた。平常はカイザリヤに居住していたが、過越の期間、監視を強めるためにエルサレムに滞在していたのであろう。あなたがユダヤ人の王であるか ユダヤの指導者たちは、イエスにローマの統治を脅かす者としての嫌疑がかかるようにと、キリストの意味を意図的に「ユダヤ人の王」と説明したのであろう。そのとおりである イエスは肯定の返事をしたが、その王権はピラトが考えているようなものではなく霊的なものであった(ヨハネ18・36参照)。ピラトも、イエスの言う王権が、政治的にも社会的にもローマに脅威を与えるものではないことを、すぐに悟るに至った。

12→14 ひと言もお答えにならなかった イエスは、祭司長たちの攻撃に対し自己弁護をしなかった。このようなイエスの受難における沈黙は、「ほふり場にひかれて行く小羊のように……口を開かなかった」(イザヤ53・7)を想起させる。それは失意や敗北を示す沈黙ではなく、

決意に満ちた威厳ある沈黙であった。総督が非常に不思議に思った……この沈黙はピラトに大きな驚きを与えた。イエスのまとう雰囲気はそれまで彼が見てきた犯罪者たちとは全く異なっていたのであろう。

15→18 ゆるしてやる慣例 このような慣習はそれぞれの地方で独自に行われていたようである。バラバ「暴動を起し人殺しをし(た)」(マルコ15・7)とある。「バラバ・イエス」と記す写本もあり、新共同訳や新改訳2017、聖書協会共同訳ではそちらを採用している。後世の写字生が犯罪者の名に救い主と同じイエスという名を(不注意と故意とを問わず)付け足すとは考えにくいので、バラバ・イエスが正しい可能性が高い。そもそもイエスはよくある名であった(コロサイ4・11参照)。バラバとキリストの「二人のイエス」からの二者択一だったことになる。ねたみのためであることが、ピラトにはよくわかっていた 民衆へのイエスの影響力の増加に対する大祭司たちのねたみ。切れ者であったピラトは、そういうことも見通していた。

19 その妻 伝承ではプロクラ・クラウディアという名で知られている。マタイ福音書では夢は神的啓示のみに

用いられる(1・20、2・12他)。彼女は夢の中でイエスが正しい人であることを知り、夫が罪なき人を断罪するという悪事に関与することのないようにと願った。

20〜22 群衆を説き伏せた ユダヤの権力者たちは、ピラトがイエスに同情的なのを見て、目的達成のために手綱を強め、無力な捕らわれ人イエスがイスラエルの希望であるはずがないこと、対するバラバがいかに愛国的な闘士であるかを力説したのである。彼らの説得は成功し、民衆はバラバの解放を求めるだけでなく、**十字架につけよ** とイエスの死、しかも最も恐ろしい死刑の形態である十字架刑を要求した(申命記21・23参照)。

23 あの人はいったい、どんな悪事をしたのか ピラトによる間接的なイエスの無罪の主張。尋問を通してイエスがいかなるローマ法をも犯していないことを彼は確信していた。それは彼の目にはユダヤ民族内での宗教的な内紛に過ぎなかった。

24 暴動になりそうなを見て 任地で暴動が起こることとは、地方総督にとっては経歴に傷がつくことであり、避けねばならないことであった。**群衆の前で手を洗って** ピラトは象徴的な行動を通して、イエスの内には死に至

るような悪事は何も見出されないことを宣言した。しかし公正なさばきをするべき総督が、群衆の要求に屈した点において、彼もまた責任を免れることはできない。

25 その血の責任は、われわれとわれわれの子孫の上にかかってもよい 「彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」(ルカ23・34)と主は祈られたが、彼らは、まさに自分を見失って、このような暴言を吐いたのである。悲しいことに、この言葉は後世、反ユダヤ主義の論拠として乱用されたが、そのような報復は神の御心ではないし、差別は絶対に許されるものではない。イエスの死を要求したのは、第一義的には当時のユダヤ指導者たちと、あるいはせいぜい彼らに扇動された特定の群衆であり、その他のユダヤ人には直接の責任はない。また神学的には、イエスの死の責任は、全人類が等しく負うべきものである。全ての人が生まれながらにして持つ罪が、イエスを十字架へと追いやったのである。にもかかわらず、イエスはご自身の死に責任ある彼らを、そして私たちを赦された。イエスの血は、人を断罪するものではなく、救いをもたらすものである。

参考図書 3月14日分と同じ。

聖書

マタイ27・45〜56

タイトル

十字架上のイエス様

暗唱聖句

わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。 マタイ27・46

目標

身代わりの十字架の意味を知り、キリストを信じて救いを得る。

導入

(和田牧子)

今週は受難週といって、イエス様が十字架へと進まれた一日一日を心におぼえる、特別な週です。皆さんはイエス様が十字架にかかれることを想像すると、どんな気持ちになりますか。こわいかな？ かなしいかな？ でも、この十字架にこそ天のお父様である神様の私たちへの愛が、大きく大きく込められているのです！

十字架への道

イエス様は、お弟子さんのひとりユダに裏切られ、銀貨三十枚で、律法学者や祭司長たちに売られてしまいました。なんで？ と思いますよね。彼らはイエス様がすばらしい神様のお働きをするのを見て、ねたましく思い、憎んでいたからです。

イエス様は人々からつばをかけられたり、悪口を言われました。そして頭にキリキリと痛い、いばらの冠をかぶせられ、何度も何度もむちでたたかれました。それから両手両足を釘でさされて、十字架にはりつけにされたのです。頭からも身体からも、いっぱい血が流れました。あんなにイエス様とともに働き、いっしょに生活していた弟子たちは、こわくなって逃げていってしまいました。私たちがこんなめにあったらどうですか？ 悲しくてつらくて、とても耐えられませぬね。でもイエス様は不平不満を言わず、十字架への道をだまって進んで行かれました。

神様に見捨てられたの？

イエス様が十字架にかけられて、お昼の十二時ごろから三時まで、とつぜん太陽の光がかげり、あたりは真っ暗になりました。どうしたのでしょうか？ それはまるで、光である神様のお姿が全く見えなくなった、私たち人間のくらい心をあらわしているかのようです。神様なんか知らない！ と、背中をむけた人間の心は、真つくなのですね。

午後三時ごろになりました。イエス様は大声で叫ばれ

ました。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ!!」

これは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。心の底からふりしぼるように、うめくように、大きな声で叫ばれたのです。「神よ! あなたは私のお父さんではないのですか? 私を愛して下さっているのではないのですか? どうしてですか? どうしてあなたの息子である私をお見捨てになったのですか?」

十字架につけられたイエス様は、身体中が痛くて痛くてつらかったと思います。でもそれにもまして、お父さんである神様から見捨てられ、その関係が断たれてしまったことが、悲しくつらいことなのでしょう。そして最後にもう一度大声で叫んで、ついに息を引き取られたのです。

その時、神殿の幕がまっぶたつに裂けました。またグラグラと地震がおこりました。これらの出来事を見、ローマの百人隊長や兵士たちは、驚き、恐れて「まことに、この人は神の子であった」と告白しました。

罪のゆるい回復への道

どうして神様は、イエス様がこのような苦しみにあうままにされたのでしょうか。それは、私たちが神様に背中を向けた、その罪の身代わりのためでした。ほんとうなら私たちが十字架にかかって、死ななくてはならなかったのに、そうしなくても良いように、イエス様のいのちを私たちに与えてくださったのでした。

神様が私たちに与えてくださった救いとゆるしの道、それがイエス様の十字架です。罪の身代わりだけでなく、私たちのつらいこと、かなしいこと、病気もいっしょに背負って、十字架にかかってくださったのです。イエス様は、私たちの苦しみをぜんぶ体験済みで、いっしょにその苦しみを背負ってくださいますよ。

結び

そして、いよいよ来週はイースター!! イエス様はお墓の中からよみがえられました。よみがえられたイエス様が私たちといっしょに生きてくださっています!

♪ゆるすためです♪ (イン25、ホ58)

聖書 マタイ27・45〜56 テーマ 十字架上のイエス(棕櫚の日)

序論

(石田高保)

イエス様は十字架上で叫んで、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われました。それは「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。受難週に入るにあたって、十字架で言われた一つの言葉に目を留めます。主は十字架で七つの言葉を残しておられます。今日の金言は第4番目で、ちょうど真ん中の言葉です。この意味するところは何でしょうか。

一、神に見捨てられて下さった

この言葉は、詩篇22篇の冒頭の言葉を唱えたのであると言われています。実際読んでみると、十字架上のイエス様本人でなければ味わえない苦しみが生々しく記されています。この詩篇を書いたのはイエス様よりも千年前のダビデ王です。彼が敵に追われて苦しめられた中で神の救いを体験したことを記したものです。しかしダビデはそれと知らず、千年後のキリストの死を神の靈感によって預言しています。当然、イエス様自身、この詩篇

は十字架を預言したものと確認しておられたはずです。

それにしてもどう読んでもこの言葉は絶望を表しているようにしか思えません。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」、これは神様に対するイエス様の祈りと言ってよいのかどうか、考えさせられるところです。明らかにお願いや嘆願ではなく、ふつうの祈りとは違います。魂の底からこみ上げるうめきと叫びのようなものでしょう。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」、これはアラム語でイエス様がふだん使っていた言葉の音をそのまま写し取ったものです。私たちも二千年前の十字架の下にいてイエス様の声をじかに聞くような臨場感があります。神様にご自分の率直な思いをぶつけている感じですよ。いつも呼びかけている「わが父よ」ではなく「わが神よ」というよそよそしい言い方で、イエス様にとっても父なる神様が遠ざかってしまったようです。「なぜあなたがこの私を見捨てるのですか、ありえないし、全く理解できません」。「神よ、あなたはどこに行ってしまったのですか」。このときイエス様は、神様から明らかに見捨てられたと受け取っておられます。

〈昼の十二時から地上の全面が暗くなつて、三時に及ん

だ、だれも経験したことのない異様な暗黒が真昼の3時間を支配しました。これは神様がイエス様から顔をそむけた現れだと言われます。

私たちも神様がどこにおられるのか、どこへ行ってしまうのかと叫びたくなることがあるでしょう。神が御子を見捨てるとはほんらい絶対にあリえないことです。なぜならイエス様と神様は本質において一体だからです。しかしこのとき、永遠に一度だけ神様とイエス様の関係が分断されました。神様はイエス様を断腸の思いで見捨てたのです。

二、重荷を負って下さった

イエス様は世界でただひとり、神から見捨てられる資格があったと言われています。罪の全くない人間だけが全時代、全世界の人間の罪を贖うことができる、贖う資格がある、つまり見捨てられる資格があるわけです。実は46節の言葉がイエス様の口から発せられなければ、私たちの身代わりとなったことの裏づけが取れません。この言葉こそが、私たちの罪の贖いが完成したことを証明しています。ですから十字架上の七言の中で最も直接に贖いに関係しています。Ⅱコリント5・21「神はわたし

たちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである」。神様は私たちの罪を贖うために、無実で潔白のイエス様を十字架にかけてあえて罪人にして罰しました。つまり見捨てたわけです。その目的は罪深い私たちが神から義とされるため、神の子どもとして完全に受け入れられるためです。46節の言葉は主が私たちの身代わりとなつて罪の贖いをして下さった事実を証明しています。

このみ言葉はまたイザヤ53章の預言の成就です。「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになつた。…彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によつて、われわれはいやされたのだ」。私たちの病氣も怪我も、罪も過ちも、苦しみも悩みもイエス様は十字架で負い、実感し、極みまで苦しんで下さいました。だから私たちが苦しむとき、主も一緒に苦しんで下さっています。私たちが悩むとき、イエス様もその悩みを共にして下さっています。私たちが悲しむとき、主もまた一緒に悲しんで下さっています。主の知らない悲しみも、苦しみも地上にはないのです。一緒に生きてくださるイエス様に目を向けましょう。

研究資料

(中島啓一)

テキスト

45 地上の全面が暗くなつて 暗やみは出エジプトの災厄の一つであり(出エジプト10・22)、終わりの日に起こることとして、預言書に記されている(アモス8・9、イザヤ13・10等)。次節は、この暗黒がイエスと父なる神との断絶の表れであることを暗示している。満月である過ぎ越しの季節に日食は考えられない(日食が起こるのは新月の時のみ)。中東の局地風「カムシン」による砂ほこりが、太陽を遮つたのかもしれない。

46 エリ、エリ、レマ、サバクタニ 詩篇22篇の冒頭部分。「エリ」のみヘブル語(アラム語では「エロイ」で、

それ以外を当時の日常語であるアラム語。これは単なる詩篇の朗誦ではなく、まさにその時、イエスが経験していたことであつた。肉体的激痛、精神的屈辱もさることながら、ゲツセマネの祈りにおいてイエスが何よりも恐れていた杯(26・39)は、この御父との断絶であつた。しかしそれは、贖罪の成就のためには、どうしても飲み干されねばならない杯であつたのである。

47 あれはエリヤを呼んでいるのだ ヘブル語の「エリ」がエリヤに聞こえたのだろう。当時のユダヤでは聖徒が助けを必要とするとき、エリヤが現れるという言い伝えがあつた(11・14参照)。

48 酔いぶどう酒 ローマ兵が飲用した、ワイン酔を水で薄めた飲料であろう。マルコでは、エリヤが登場するかを見るために、兵が悪意をもって飲ませようとした印象を受けるが(マルコ15・36)、マタイではそういう印象は受けない。いづれにせよ「彼らは：わたしのかわいた時に酔を飲ませました」(詩篇69・21)という預言の成就である。ちなみに「没薬をませたぶどう酒」(マルコ15・23)は苦痛を緩和させるためのもので、別物である(イエスはそれを拒まれた)。

49 エリヤが彼を救いに来るかどうかが、見ていよう興味本位もあるだろうが、人々がイエスを、(言い伝えが正しければ)エリヤが助けに来るような義人と認めていたことが示されている。

50 イエスはもう一度大声で叫んで、ついに息をひきとられた 口語訳は四福音書すべてでイエスの死の様子を「息をひきとられた」と訳しているが、原語では表現に差

異がある。マルコ、ルカは文字通り「息をひきとった」という意味であるが、ヨハネは「**ギ**」プネウマ（息、霊の両方を指しうる）を委^{ゆた}ねたと記す。マタイの場合は、マルコ・ルカとヨハネの中間あたりの表現と言えよう。

51〜53 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた 至聖所の前に設けられた「第二の幕」（ヘブル9・3参照）。「裂けた」の動詞は受動態で、動作の主体が神であることを示している。至聖所は、年に一度、大祭司ただ一人が、自分と民の罪の贖いのために入ることを許される所（ヘブル9・7）。その隔ての幕が裂けたことは、イエスの死によって、旧約の祭儀は終焉を迎え、新しい時代が始まったことを象徴している。今や、罪のための最上の犠牲がささげられた。「わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができ、彼の肉体なる幕をとおり：はいって行くことができる」（ヘブル10・19〜20）。**地震** マタイだけが、イエスの死の後に地震があったことを記している。眠っている多くの聖徒たちの死体が生き返った：イエスの復活ののち、墓から出てきて：多くの人に現れた 出来事の前後関係が難解だが、様々なことを考慮すると、ここで言われている地震

は実際には、イエスのよみがえりの後（28・2と同じ地震）のことかもしれない。聖徒たちの復活は、その時実際にあったのかもしれないが、やがて起こる聖徒のよみがえりの現実を象徴する表現として、ここに記されているのかもしれない。いずれにせよ、この記述がここに置かれていたことは、聖徒のよみがえりが、イエスの十字架と復活に直接に依存するものであることを象徴している。イエスが死に、そして復活されたゆえに、彼を信じる者の復活もまた確かにされるのである。

54 まことに、この人は神の子であつた イエスの神性な性質と無実性、そしてローマ（ならびにユダヤ）の罪深さを認める告白であろう。この告白が異邦人によってなされたということは皮肉であると共に、救済史的な転換点（異邦人への救い）を指し示すものでもある。

55〜56 遠くの方から見ていた女たち 最後まで主の苦しみを見届けたのは、女性たちであつた。主に対してより大きな忠誠心を表した彼女たちが、数日後、主の復活という至上の喜びを最初に伝えるという光栄にあずかることになる。

参考図書 3月14日分と同じ。

牧羊ひろば



小松島栄光教会

小松島栄光教会では、教会学校を日曜日の朝9時30分から10時まで行っています。幼児から中学生までを対象としています。子供たちは7名、CS教師は4名です。子供たちの年齢が4歳ずつ離れており、上の子が下の子の面倒を見、下の子は上の子を慕うという良い関係が築かれていました。新型コロナウイルスの影響で公立学校が休校になったのに合わせて、3月から5月までの3か月間休校にしましたが、現在は再開しています。しかし、家の都合で、この4月から毎週出席できなくなった子供もあり、現在の平均出席者数は1名です。教会学校に出席できなくなったこの子供には、牧羊者のワークと聖書日課を毎週送るようにしています。

それでは、これまでの約10年間の取り組みについて、ご紹介します。



デイキャンプ 流しそうめん



デイキャンプ みことばと讃美の時間

●教会でデイキャンプ

教区主催のバイブルキャンプに集えない子供たちのことを考え、夏休みの一日を8時30分から20時頃まで教会で過ごすデイキャンプを、二〇一二年から二〇一六年の5年間、開催しました。いつも教会学校へ来ている子も、まだ一度も教会へ来たことのない子も、みんなあつま



デイキャンプ カレーライスづくり

れー!! 毎年テーマを決めて案内します(幼児は保護者同伴で)。これまでに開催したテーマは、「だいすきでよ!」「ひとつ!」「つながろう!」「かがやこう!」「主の手足になろう!」でした。プログラムは、みことばと讃美タイムが午前と午後の二回、みんなで遊ぼうタイム、宿題の時間、夕食の準備、後片付け。

みんなで遊ぼうタイムでは、イエス様が弟子たちの足を洗われた事にちなんで、参加者全員がお互いに足を洗ってあげる、洗ってもらう体験をしました。洗ってもらうのは、とても恥ずかしかったようです。他にも、壮年会の方に教わりながら竹鉄砲を作って遊んだり、婦人会の方に教わりながら、ラベンダーで香り棒を作ったりしました。スイカの差し入れがあったときには、スイカ割りもしました。

お昼には、事前に半分に割っておいた竹で流しそうめんをしました。夕食はカレーライスです。近くのスーパーに買い物に行き、みんなで協力して作って食べました。後片付けがすんだら、花火をして解散。

このデイキャンプには、日頃教会学校に来ている子供やそのお友達、夏休みで、おじいちゃんおばあちゃん宅

に遊びに来ていた子供やその親戚の子供、信徒の友達が自分の子供を連れて親子で参加してくださいました。青年会、婦人会、壮年会からも奉仕者が与えられ、主になって、思いっきり楽しい時を過ごしました。

今は、奉仕者の減少により、デイキャンプを行うことができなくなりました。



クリスマス祝会 劇

●クリスマス祝会での教会学校の出しもの

小松島栄光教会では、教会全体でクリスマス祝会をします。教会学校の出しものとしては、紙芝居（靴屋のマルチン、天地創造）を自分たちで作ってお話を読んだり、ミュージックベルを演奏したり、劇（羊飼いのクリスマス〔阿波弁〕、カナの婚宴）等をしました。地域の子供が劇に出たときは、その両親や兄弟が礼拝から参加し、祝会も一緒になって楽しんでおられました。

去年のクリスマスでは、はじめに模造紙に書かれたみことば（イヨハネ4・7～10）を交読し、そのあとでパブリカを踊りました。その日はじめて教会に来た子供たちも、飛び入りで参加して一緒に踊り楽しむことができました。

●幼児・児童祝福式

毎年11月に、礼拝中に行ないます。現在、信徒の子供や孫たちで小学生以下は15名位です。年々礼拝の時に共に集う子供が減っています。信仰継承のために主の導きを祈っています。

夜、初更に起きて叫べ。主の前にあなたの心を水のよ

うに注ぎ出せ。町のかどで、飢えて息も絶えようとする
幼な子の命のために、主にむかって両手をあげよ。

哀歌 2・19

●CS合同礼拝

毎月第二日曜日の教会学校は、10時30分からの礼拝に
合流しています。壮年会・婦人会・青年会&教会学校が
順番に、証詞や讃美や信仰に関する話などをします。教
会学校では、教区バイブルキャンプの感想や手話讃美や
振り付けのある讃美をしました。



幼児・児童祝福式

●各会主催のお楽しみ会

小松島栄光教会では、各会主催のお楽しみ会に子ども
から大人まで誰でも自由に参加できます。各会の人数は
少ないですが、年代を超えた交わりを楽しんでいます。

1月には、青年会主催で書初めをします。心に留まっ
たみことばを墨で書きます。一ヶ月ほど掲示してから



CS合同礼拝での讃美

持って帰ります。また、一年間の写真を模造紙に貼って掲示します。それぞれの写真に、青年や子供たちがコメントを記入します。希望者は、写真を購入することもできます。

3月には、婦人会や教会学校主催でおやつ作りをします。餅つき機でついたお餅を丸めたり、いちご大福を作ったり、クレープを作ったりしました。もちろん作った後はみんなでおいしくいただきました。

婦人会の方が、ご自身の趣味をみんなで楽しみたいと、夏に藍染め体験をしたり、秋には松ぼっくりでクリスマスツリーを作ったりしました。

4月と11月には、壮年会主催で野外親睦会（お花見紅葉）をします。みことばと讚美の時、ゲーム、お弁当、自由に散策の時があり、日曜日に教会に集えないお孫さんたちもいっしょに楽しい時を過ごしました。

●地域の小学校でのお話タイムに参加

5月から3月まで毎月一回15分間、地域の小学校に出かけて、絵本を読みます。12月には、「クリスマスのくりもの」「したきりすずめのクリスマス」によって、イエ

ス様のお誕生を伝えます。その他には、「きみのかわりはどこにもいない」「たいせつなきみ」「ゴンダールのやさしい光」「わがままな大男」「天動説の絵本」「ふしぎなたね」「ゆうき」「葉っぱのフレディ」「ありがとうフォルカー先生」「ほしとたんぽぽ」「にじいろのしまうま」「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」「しあわせの王子」「フランダーズの犬」等、これらのお話をとおして、



思い出写真づくり

神様の愛が伝わることに神様に心が向かうことを祈っています。

●今後の展望

小学生の頃に友達と遊び感覚で教会学校に2〜3回集ったことのあるAさんは、中学生になって、ある授業で「この中にキリスト教の人はいますか？」と聞かれたときに、積極的に手を上げて「私、キリスト教です」と言ったそうです。家は仏教のようですが、「家に（ギデオンの）聖書があるから」とのこと。いろんな事情で続いて教会には来ていなくても、Aさんのようなお友達がいることに大きな励ましをいただきました。

友達と楽しく通った教会、播^まかれた種はいずれ芽を出して成長することを期待して、祈りつつ、今できることに、全力で励みたいと思います。そういえば、今年の六月から熱心に求道しておられる方は、学生時代に教会に行ったことがあるそうです。実に〇十年ぶりでしょう。感謝です。

（宮崎千恵）



秋の野外親睦会

造り主なる神を知る

創世記 1・1

●クリスマス・年末年始

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

1月3日 新年

新しく生まれる ヨハネ 3・1～15

同 3・3 節

●ヨセフ

1月10日

ヨセフ ①

創世記 37・5～11

箴言 16・9 節

17日

ヨセフ ②

創世記 39・19～23

同 39・23 節

24日

ヨセフ ③

創世記 41・37～49

同 41・38 節

31日

ヨセフ ④

創世記 45・1～15

同 45・8 節

●イスラエルの指導者

2月7日

モーセの誕生

出エジプト 2・1～10

ヘブル 11・23 節

14日

ヨシユアと
エリコの町

ヨシユア 6・1～20

同 6・5 節

21日

ギデオンの戦い

士師 7・16～18

同 7・7 節

28日

サムソン

士師 16・15～22

同 16・17 節

●キリストの十字架への道

3月7日

タラントを
活かす

マタイ 25・14～30

同 25・21 節

14日

最も小さい者
のために

マタイ 25・31～46

同 25・40 節

21日

真理にした
がつて生きる

マタイ 27・11～26

同 27・26 節

28日 棕櫚の日

十字架上の
イエス

マタイ 27・45～56

同 27・46 節

おわりに

『牧羊者』二〇二〇年度第Ⅳ巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご芳に感謝いたします。

巻頭言は川本教会の大坪羊子師が執筆してくださいました。教師養成講座は小野淳子師が二〇二一年に執筆くださったものを再掲させていただきました。「牧羊ひろば」は小松島栄光教会のCSを紹介していただきました。なお『牧羊者』では次号(二〇二一年度第Ⅰ巻より)「新改訂2017」を使用いたします。

今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

『牧羊者』のご購読・ご利用について

* 分級用に、ワークA(幼稚園向け)、B(主に小学生1~3年生向け)、C(主に小学生4~6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。
信徒局 教会教育室 ホームページ
<http://cs.jccj.info/>

* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。
神戸市兵庫区塚本通3-3-19
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-6611

メッセージ例	飯田勝彦師	後藤 真師	松浦みち子師
聖書講解	土屋開夫師	和田牧子師	櫻井めぐみ師
研究資料	石田高保師	宮澤清志師	小泉 創師
	福井文彦師	高橋頼男師	
ワーク(A)	加藤 満師	宮澤清志師	小平德行師
(B)	辻林和己師	中島啓一師	
(C)	鎌野 幸師	宇野真佑美師	吉田美穂師
	勝田幸恵師	石川剛士師	竹崎光則師
	野勢かほる師		
	勝田恭子師	八幡直人師	田中裕明師
	勝田幸恵師		
中高科へのヒント	後藤健一師	石田高保師	三輪正見師
子ども聖書日課	小野淳子師	田中愛子師	金田ゆり師
フラッシュカード	加藤 満師	後藤栄子師	柴田福音師
	丹羽 遥師	松浦あん姉	
み言葉カード・イラスト	加藤 満師	後藤栄子師	柴田福音師
	松浦あん姉		
ワープロ打ち込み	多田豊子師		
校 正	後藤健一師	中島啓一師	

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、印刷の松本共栄印刷、菱三印刷に心から感謝いたします。(中島啓一)

聖書教育教案誌 牧羊者 二〇二〇年度 Ⅳ巻

二〇二一年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室
企画監修 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室
神戸市兵庫区塚本通三-1-19

印刷所 菱三印刷株式会社
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-5511
電話 (078) 575-5511

* 日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み